PHILIPS

Signage Display

6000 Series

65BDL6017P

ユーザーマニュアル (日本語)

www.philips.com/ppds

目次

1. 安全上の注意 1
2. 開梱と設置 3
   - 2.1. 開梱 3
   - 2.2. 梱包箱に含まれているもの 5
   - 2.3. 設置に関する注意 5
   - 2.4. 壁に取り付ける 6
     - 2.4.1. VESA 規格取付穴 6
   - 2.5. 縦長向きの設置について 7
     - 2.5.1. ロゴのはがし方 7
3. 各部の機能 8
   - 3.1. コントロールパネル 8
   - 3.2. 入力 / 出力端子 9
   - 3.3. リモコン 10
     - 3.3.1. 一般の機能 10
     - 3.3.2. リモコン ID 11
     - 3.3.3. リモコンに乾電池を挿入する 12
     - 3.3.4. リモコンの取り扱い 12
     - 3.3.5. リモコンの動作範囲 12
   - 3.4. USB カバー 13
   - 3.5. AC スイッチカバー 13
4. 外部機器を接続する 14
   - 4.1. 外部機器を接続する 14
     - 4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用 14
   - 4.2. PC の接続 14
     - 4.2.1. DVI 入力の使用 14
     - 4.2.2. HDMI 入力の使用 14
     - 4.2.3. DP 入力の使用 15
   - 4.3. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する 15
     - 4.3.1. ディスプレイコントロール接続 15
   - 4.4. IR 接続 15
   - 4.5. IR パススルー接続 16
   - 4.6. ネットワークへの接続 16
5. 取り扱い 17
   - 5.1. USB デバイスのマルチメディア ファイルを再生する 17
6. OSD メニュー 18
   - 6.1. OSD メニューをナビゲートする 18
     - 6.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする 18
     - 6.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする 18
   - 6.2. OSD メニューの概要 18
     - 6.2.1. 映像設定メニュー 18
     - 6.2.2. 画面設定メニュー 19
     - 6.2.3. 音質設定 20
     - 6.2.4. 詳細設定 1 メニュー 20
     - 6.2.5. 詳細設定 2 メニュー 21
     - 6.2.6. オプション 22
7. 対応するメディア形式 26
8. 入力モード 27
9. 画素欠陥ポリシー 28
   - 9.1. 画素とサブ画素 28
   - 9.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義 28
   - 9.3. 明るいドット欠陥 28
   - 9.4. 暗いドット欠陥 29
   - 9.5. 画素欠陥の近接 29
   - 9.6. 画素欠陥の許容範囲 29
   - 9.7. MURA 29
10. 清掃とトラブルシューティング 31
    - 10.1. 清掃 31
    - 10.2. トラブルシューティング 32
11. 技術仕様 33

Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポリシー 35

索引 37

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス

警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電気的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。
このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

この製品には、オペレーティングシステムが搭載されています。AC スイッチで直接シャットダウンすると、プログラムが損傷し、再び電源をオンにできない可能性があります。頻繁なシャットダウンによりシステムの電源をオンにできない場合、「工場出荷時の設定にリセット」を試みてください。「工場出荷時の設定にリセット」の実行後にディスプレイが再起動されると、システムに保存されているすべてのデータが失われます。

操作時 :

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたって使用することは推奨されません。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地 (アース) された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

メンテナンス :

- ディスプレイを損傷の可能性から保護するために、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを動かしているとき、フレームをつかんで持ち上げます。LCD パネルに手や指を置いてディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。

- 環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	° C
動作温度	0	40	° C
ガラス面温度 (動作時)	0	65	° C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要:ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告:「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス :

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。

本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかりと固定してください。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

<アプリのインストールについての注意事項>

●アプリのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。

ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。

● 万が一、お客様がインストールを行ったアプリなどにより各種動作不良が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となります。

●お客様がインストールを行ったアプリなどにより自己または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。

●アプリによっては、自動的にパケット通信を行うものがあります。パケット通信は、切断するかタイムアウトにならない限り、接続されたままです。

●アプリによっては、自動的にアップデートが実行される場合があります。

● Android OS のバージョンダウンもバージョンアップも行わないで下さい。

● Android OS のバージョンに合わせたアプリをインストールしてください。

2. 開梱と設置

2.1. 開梱

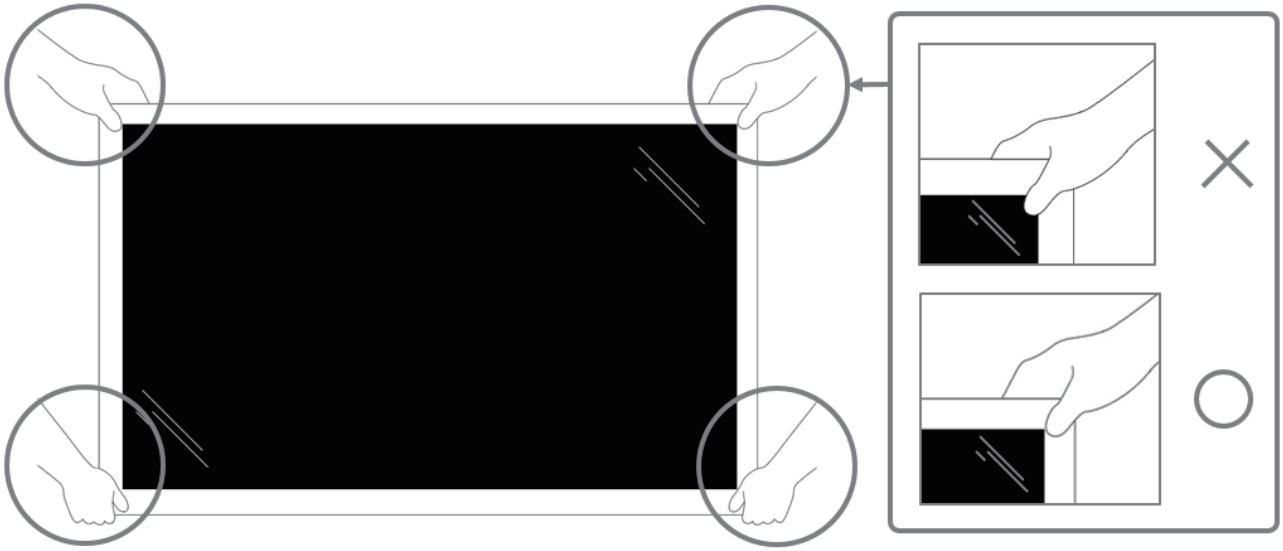
- 本ディスプレイは、標準アクセサリーと共に専用の箱に梱包されています。
- オプションのアクセサリーは、別途ご購入が必要です。
- 本ディスプレイは背が高く重いため、移動させる際には 2 人の技術者が行うようにしてください。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認下さい

■ 開梱する前に

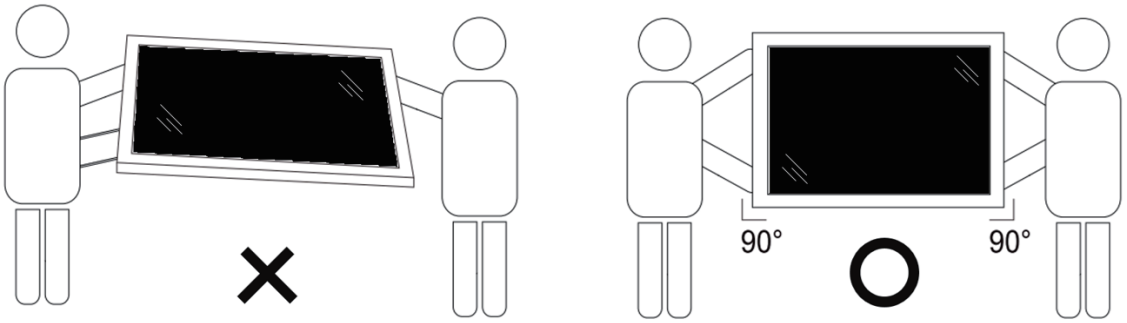
- 設置する前に、開梱通知を読んで十分に理解してください。
- 梱包を確認し、きしみ、へこみ等の異常がないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■ 通知

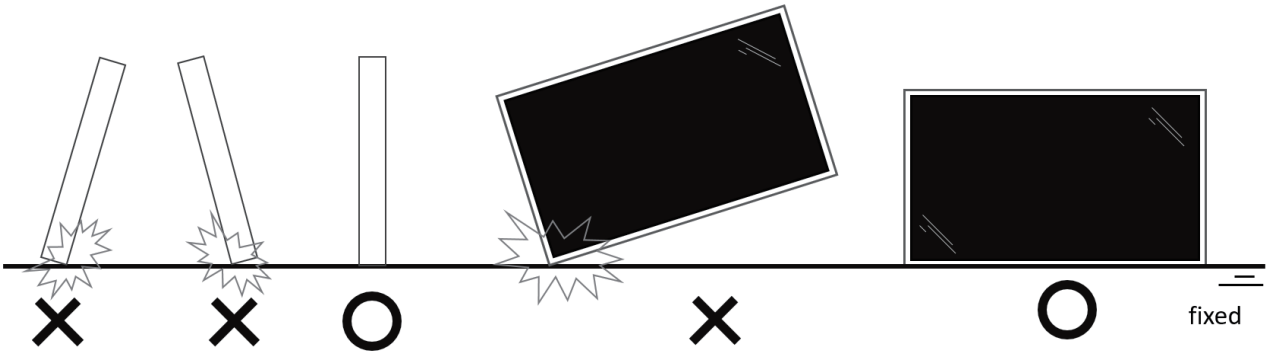
- 大人 2 人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
- ディスプレイのガラスをつかんだり触れたりしないようにしてください。
- ディスプレイのベゼル面 (プラスチックまたは金属の部分) をつかむようにしてください。



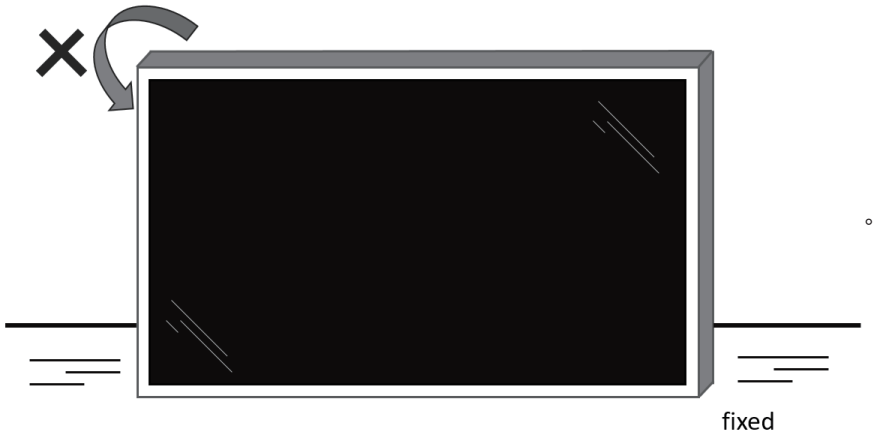
- ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。



- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



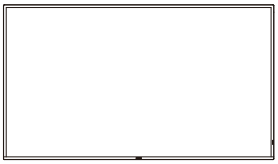
- ディスプレイを移動している間、曲がったりねじれたりしないように、垂直に維持してください。



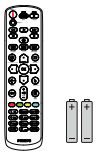
2.2. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

- LCD ディスプレイ
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- クイックスタートガイド
- 電源ケーブル
- HDMI ケーブル
- RS232 ケーブル
- RS232 デイジーチェーンケーブル
- Philips ロゴ
- IR センサーケーブル
- AC スイッチカバー
- USB カバー
- ケーブル留め X 3



LCD ディスプレイ

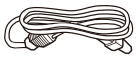


リモコンとリモコン用単4乾電池

保証書

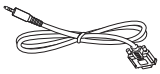
クイックスタートガイド

* 付属電源コードは目的地によって異なります。

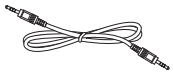


電源ケーブル

HDMI ケーブル



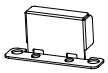
RS232 ケーブル



RS232デイジーチェーンケーブル

Philipsロゴ

IRセンサーケーブル



ACスイッチカバー

USBカバー

ケーブル留め
X 3

* 地域によって異なります。

ディスプレイのデザインとアクセサリーは、上記例示したものと異なる場合があります。

メモ：

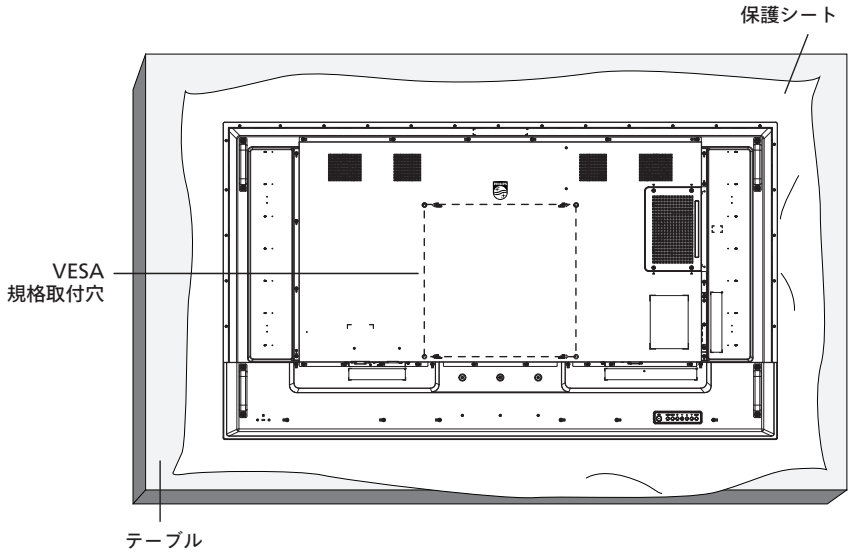
- 他のすべての地域の場合、コンセントの AC 電圧に一致し、特定の国の安全規制により承認され適合する電源コードを利用してください。
- 本製品を運搬する際は、専用の梱包箱と梱包材の使用を推奨します。

2.3. 設置に関する注意

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 5000 m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット (市販品) が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



1. 平らな面に、梱包時に本ディスプレイを包んでいた保護シートを広げてください。画面を傷つけることなく、スムーズに取り付けられるように、保護シートの上に、ディスプレイを下に向けた状態で置いてください。
2. 取り付けるタイプ (壁掛け、天上取り付けなど) に必要となるすべての付属品があることを確認してください。
3. 取り付けにあたっては取付金具に同梱の説明書をよくお読み下さい。取付手順を誤ると、破損や作業者の怪我につながる恐れがあります。誤った取付方法が原因で生じた破損は、当社の保証の対象外となりますので、ご注意下さい。
4. 壁掛け用取付金具には、M8 取付ねじ取付ブラケットの厚さより 15 ㎜以上長いものを使用し、しっかりと固定して下さい。

2.4.1. VESA 規格取付穴

65BDL6017P	400 (横) x 400 (縦) mm

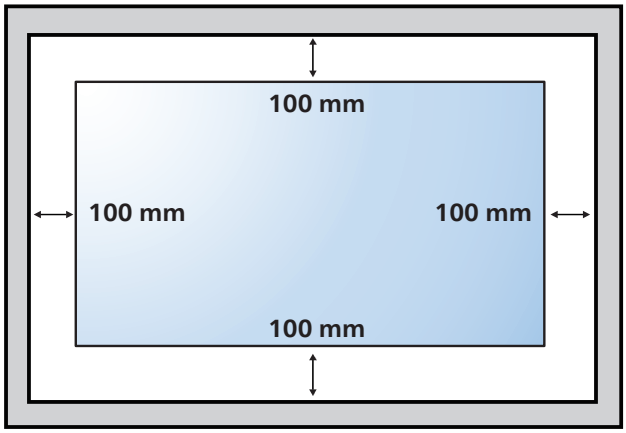
注意:

本製品の落下を防止するために:

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付ける位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。

換気用に必要なスペース

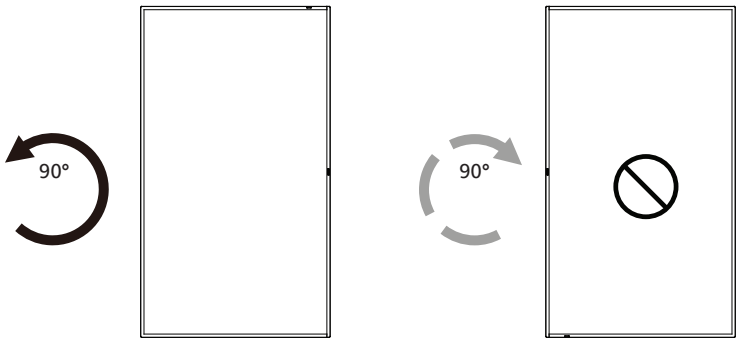
換気のために、上部、背面、左右に 100 mm のスペースを空けてください。



2.5. 縦長向きの設置について

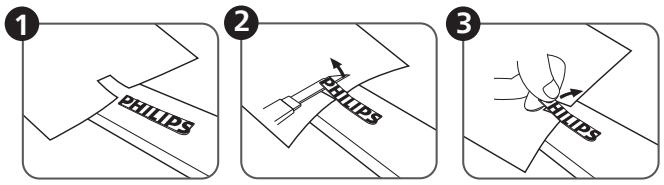
本ディスプレイは、縦長向きに設置できます。

ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させます。ディスプレイを正面に見て、「PHILIPS」ロゴが右側にある必要があります。



2.5.1. ロゴのはがし方

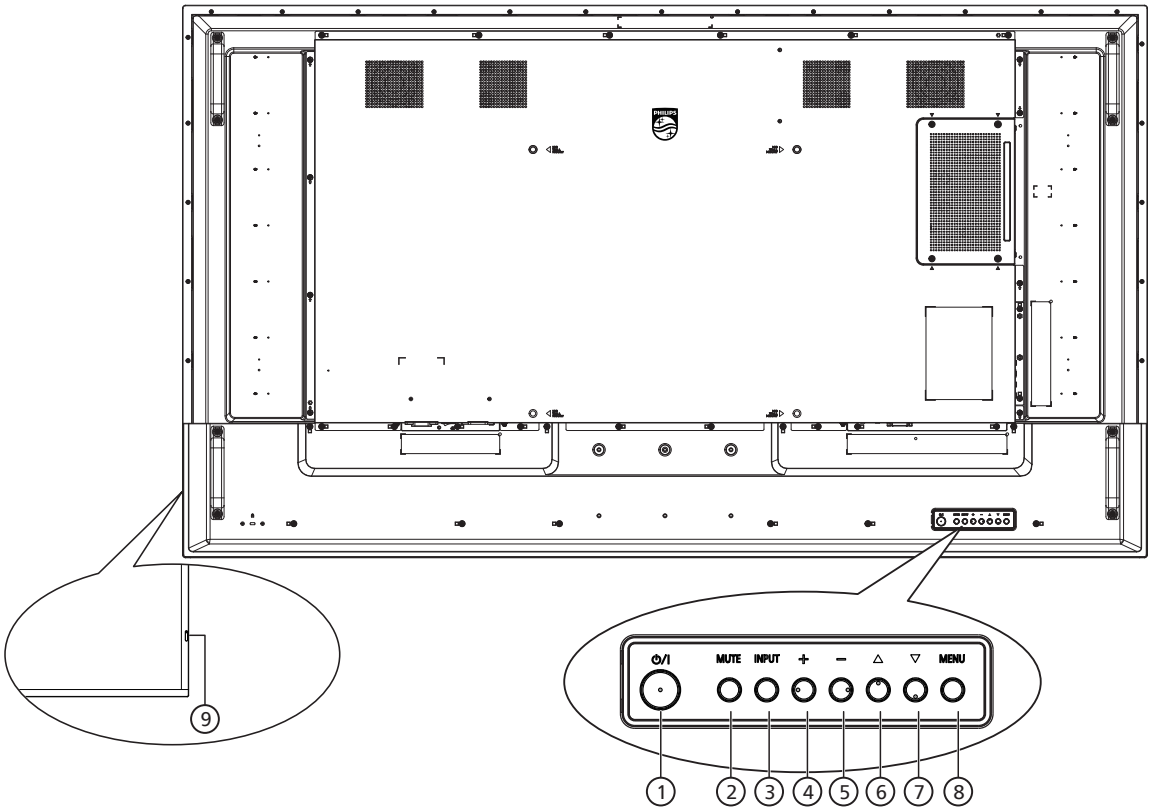
1. 前面ベゼルに傷がつかないよう、ロゴ部分を切り抜いた紙を用意して当て紙として使用します。
2. 下に紙を敷いた状態で、ナイフを使って注意深くロゴシールをはがしていきます。
3. ロゴシールを取り除きます。



注記： ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

3. 各部の機能

3.1. コントロールパネル



① **[⏻] ボタン**
このボタンを押して、ディスプレイの電源を入れたり、ディスプレイをスタンバイモードにします。

② **[消音] ボタン**
このボタンを押して、音声をミュートしたり、音声を復元したりします。

③ **[入力] ボタン**
入力ソースを選択します。
OSD メニューで選択を確認します。

④ **[＋] ボタン**
OSD メニューが ON の時には調整を上げ、OSD メニューが OFF のときには、音声出力レベルを上げます。

⑤ **[ー] ボタン**
OSD メニューが ON のときには調整を下げ、OSD メニューが OFF のときには音声出力レベルを下げます。

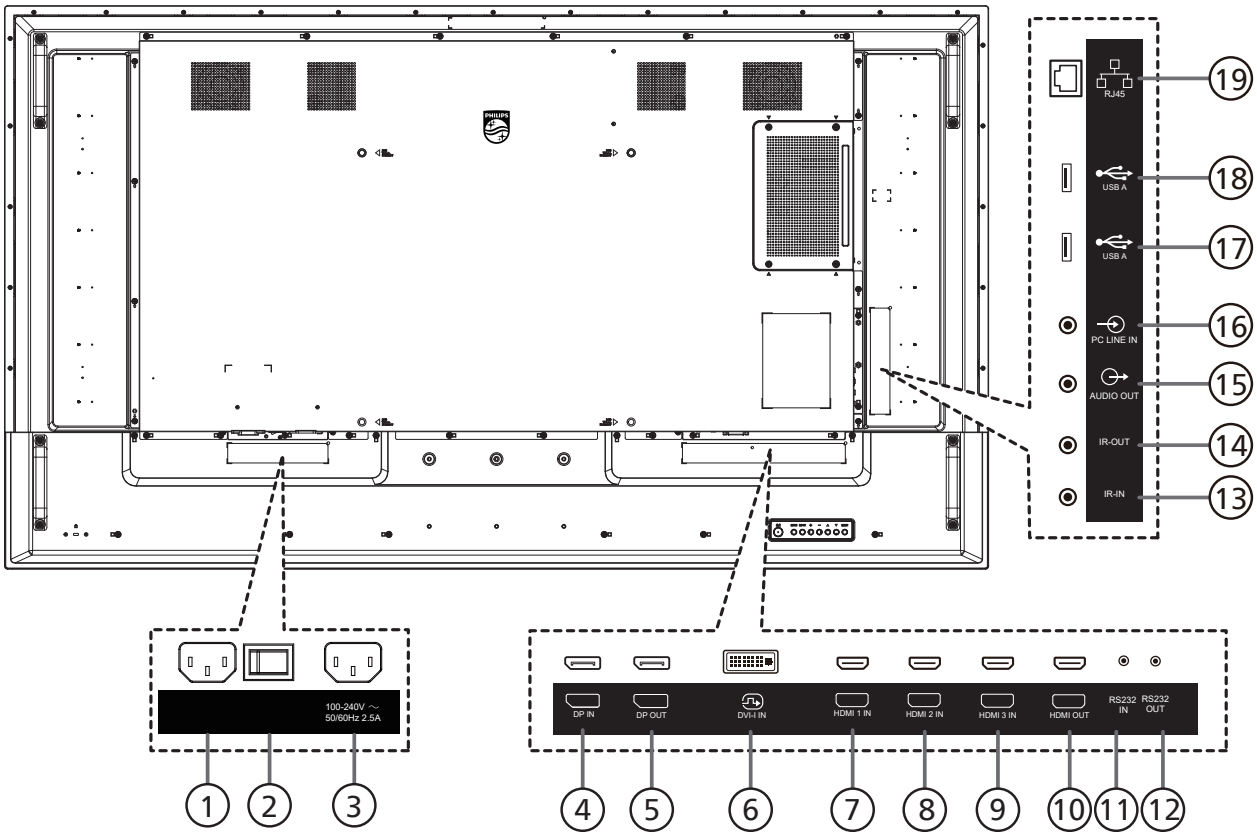
⑥ **[▲] ボタン**
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ上げます。

⑦ **[▼] ボタン**
OSD メニューがオンのときには選択した項目のレベルを 1 つ下げます。

⑧ **[MENU] (メニュー) ボタン**
OSD メニューがオンのときには前のメニューに戻ります。また、このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを有効にするためにも使用します。

⑨ **リモコンセンサーと電源状態インジケーター**
- リモコンからの指令信号を受信します。
- 本ディスプレイの動作状態を表示します：
  - 本製品の電源がオンのとき緑色点灯する。
  - 本製品がスタンバイモードのとき赤色点灯する。
  - ディスプレイがパワーセーブモードに入るとき、または {WOL} が有効になると、オレンジ色に点灯します。
  - { スケジュール } が有効の場合は、黄色と赤色に点滅します。
  - 赤色点滅の場合は故障の検出を示す。
  - 本製品の主電源がオフの場合消灯する。

3.2. 入力 / 出力端子



① **AC 入力**
壁コンセントからの AC 電源入力。

② **主電源スイッチ**
主電源のオン / オフを切り替える。

③ **AC 出力**
メディアプレーヤーの AC 入力ジャックに AC 電力を供給します。

④ **DisplayPort 入力 /** ⑤ **DisplayPort 出力**
DisplayPort ビデオ入力 / 出力。

⑥ **DVI-I 入力**
DVI-I ビデオ入力。

⑦ **HDMI 1 入力 /** ⑧ **HDMI 2 入力 /** ⑨ **HDMI 3 入力 /**
⑩ **HDMI 出力**
HDMI ビデオ / 音声入力 / 出力

⑪ **RS232 入力 /** ⑫ **RS232 出力**
ループスルー機能向けの RS232 ネットワーク入力 / 出力。

⑬ **IR 入力 /** ⑭ **IR 出力**
ループスルー機能向けの IR 信号入力 / 出力。

メモ:

- このディスプレイのリモコンセンサーは、**[IR 入力]** が接続されている場合、動作を停止します。
- 本ディスプレイを使ってお持ちの AV デバイスをリモート操作する場合は、16 ページに記載されている「**IR パススルー接続**」を参照してください。

⑮ **音声線出力**
外部 AV デバイスへの音声出力。

⑯ **PC 線入力**
VGA ソース用の音声入力 (3.5mm ステレオ電話)。

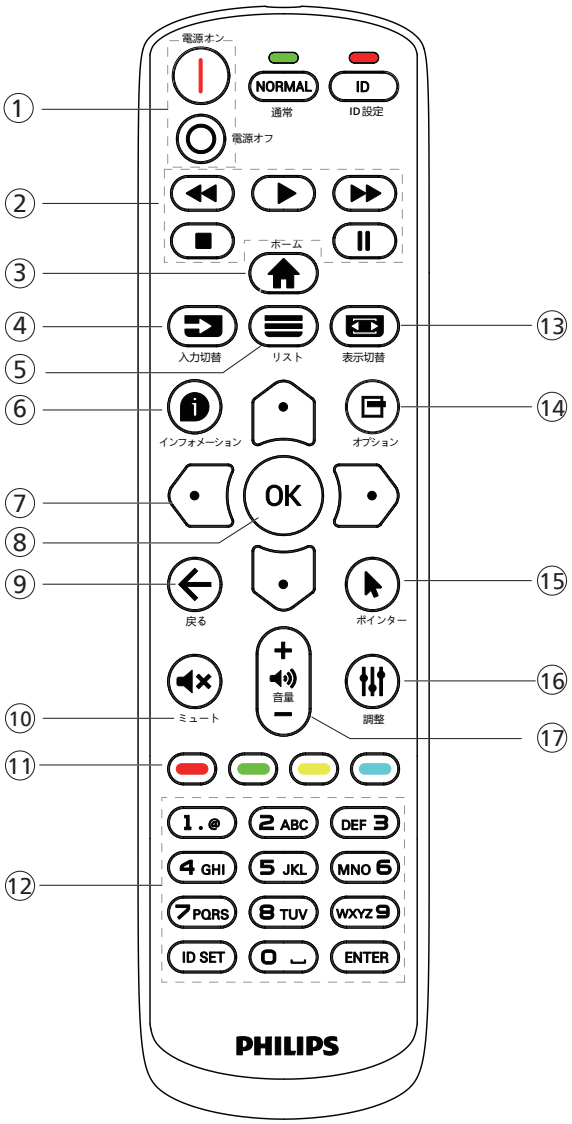
⑰ **USB A**
USB ストレージデバイスとサービスポートを接続します。

⑱ **USB A**
USB ストレージデバイスとサービスポートを接続します。

⑲ **RJ-45**
コントロールセンターからリモコン信号を使用するための LAN 制御機能です。

3.3. リモコン

3.3.1. 一般の機能



① **[I/○] 電源ボタン**

[I] 電源をオンに切り替えます。
[○] 電源をオフに切り替えます。

② **[プレー] ボタン**

メディアファイルの再生を操作します。

③ **[⌂] ホームボタン**

OSD メニューにアクセスします。

④ **[⇨] ソースボタン**

入力ソースを選択します。[⌂] または [⛉] ボタンを押して **USB、ネットワーク、HDMI 1、HDMI 2、DisplayPort、DVI-D、YPbPr、AV** および **VGA** を選択します。[OK] ボタンを押して確認し、終了します。

⑤ **[☰] リストボタン**

予約済み。

⑥ **[ⓘ] 情報ボタン**

現在実行しているアクティビティの情報を表示します

⑦ **[⌂][⛉][◁][▷] ナビゲーションボタン**

メニューを移動して項目を選択します。

⑧ **[OK] ボタン**

入力または選択を確定します。

⑨ **[←] 戻るボタン**

以前に選択したメニューに戻る、または以前の機能を終了します。

⑩ **[🔇] ミュートボタン**

消音機能をオン／オフで切り換えます。

⑪ **[■] [■] [■] [■] 色ボタン**

タスクやオプションを選択します

⑫ **[数字] ボタン**

ネットワーク設定にテキストを入力します。ID モードの ID を設定します。

⑬ **[▭] 形式ボタン**

ズームモードを変更します。

⑭ **[▤] オプションボタン**

現在選択可能なオプションを操作します。画像および音声メニュー用。

⑮ **[↖] ポインターボタン**

このモデルの場合には機能がありません。

⑯ **[⫶] 調整ボタン**

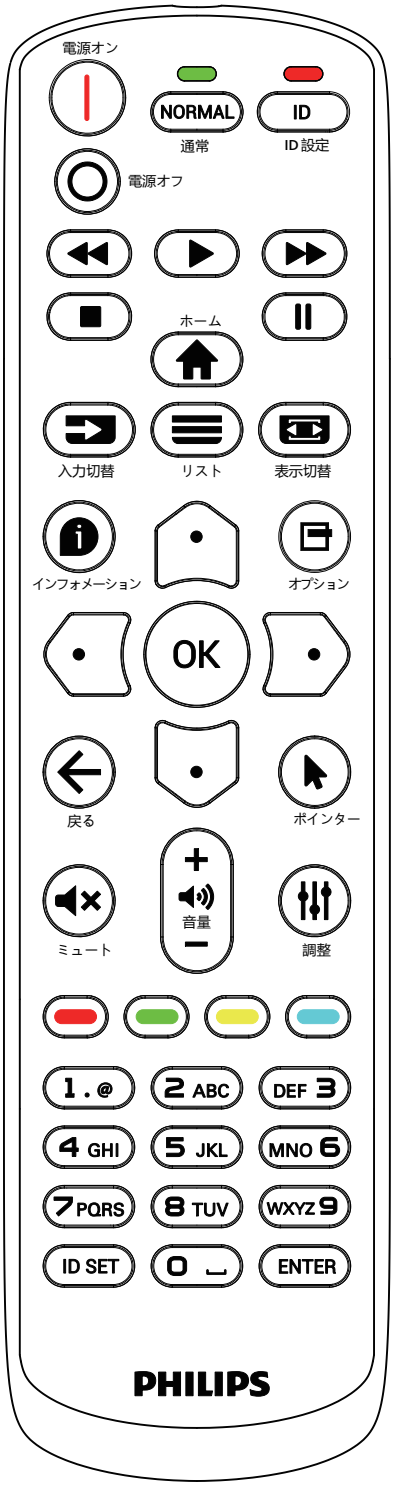
現在選択可能なオプションを操作します。画像および音声メニュー用。

⑰ **[ー] [＋] 音量ボタン**

音量を調整します。

3.3.2. リモコン ID

複数台のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] (ノーマル) ボタンを押してください。赤い LED が 2 回点滅します。

1. ID モードに移行するためには、[ID 設定] ボタンを 1 秒以上押してください。赤い LED が点灯します。
   [ID 設定] ボタンを再度押すと、ID モードを終了します。赤い LED が消えます。

[0] ~ [9] の数字を押して、コントロールしたいディスプレイを選択します。
例：ディスプレイ番号 1 では [0] と [1]、ディスプレイ番号 11 では [1] と [1] を押してください。
使用できる番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にどれかのボタンを押さないと、ID モードを離れます。
3. 間違ったボタンを押した場合には、赤い LED が消えて再度点灯してから 1 秒間待って、正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して、承認してください。赤い LED が 2 回点滅して、消えます。

注記：

- [NORMAL] (ノーマル) ボタンを押してください。緑の LED が 2 回点滅して、ディスプレイが正常に作動していることを示します。
- ID 番号を選択する前に、それぞれのディスプレイで ID 番号を設定する必要があります。
- リモコンの「❚❚」(一時停止) キーを使用して、画面をフリーズします。リモコンの「▶」(再生) キーを使用して、画面のフリーズを解除します。
- 「フリーズ」機能は、VGA、AV、YPbPr、HDMI、DVI、DP などの「リアル」ビデオソースにのみ適応できます。
- リモコンで操作するか、ビデオモードを変更すると、画面のフリーズが解除されます。

3.3.3. リモコンに乾電池を挿入する

リモコンは 2 本の 1.5V 単 4 乾電池で作動します。

乾電池を取り付ける、または交換する :

1. カバーを押してスライドさせ、開いてください。
2. 極性 (+) と (-) を正しい位置にして乾電池を挿入してください。
3. カバーを閉じてください。

注意:

乾電池を誤って使用すると、液漏れまたは爆発を引き起こす可能性があります。以下の指示に必ず従ってください:

- 正しい極性 (+ と -) で単 4 乾電池を挿入してください。.
- 違う種類の乾電池を一緒にして使用しないでください。
- 使用済みの乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。そうしないと、液漏れが発生したり、乾電池の寿命が短くなったりする可能性があります。
- 切れた乾電池は乾電池収納部に液漏れする原因となるため、直ちに取り出してください。皮膚が負傷する可能性があるため、乾電池の漏れた酸に触れないでください。
- バッテリーを火や高温のオーブンに廃棄したり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりすると、爆発する可能性があります。バッテリーを非常に高温の周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏れが発生する可能性があります。バッテリーを非常に低い空気圧にさらすと、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。

注記: 長期間にわたって使用しない場合は、乾電池収納部から乾電池を取り外してください。

3.3.4. リモコンの取り扱い

- リモコンを落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、乾いた布で直ちに拭いてください。
- 熱や蒸気を発生するものの近くに、リモコンを置かないでください。
- リモコンの乾電池を交換する以外の場合、リモコンを分解しようとしないでください。

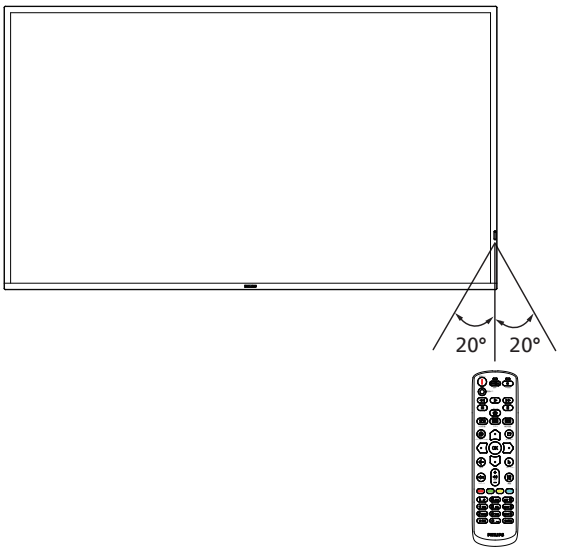
3.3.5. リモコンの動作範囲

ディスプレイのリモコンセンサーにリモコンを向けてください。

ディスプレイのリモコンセンサーから 5 m、左右 20 度の範囲内でリモコンを使用してください。

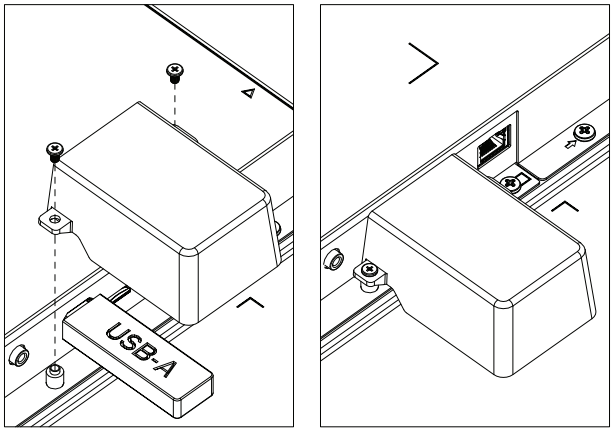
注記:

- ディスプレイのリモコンセンサーが直射日光や強い照明を浴びていたり、障害物が信号伝達を妨害していたりすると、リモコンが適切に作動しないことがあります。
- リモコンの機能を向上させるため、IR センサーケーブルを使用してください。(詳細については 4.4. IR connection を参照してください)

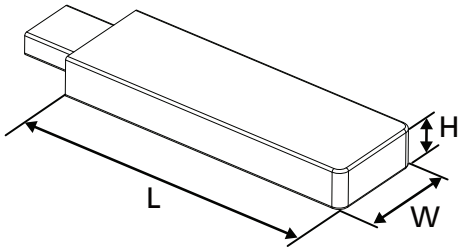


3.4. USB カバー

- USB カバーとネジで、USB スティックとマイクロ SD カードをカバーします。
  1.USB スティックと Micro SD カードを取り付けます。
  2. 付属のネジを使用して USB カバーを固定します。



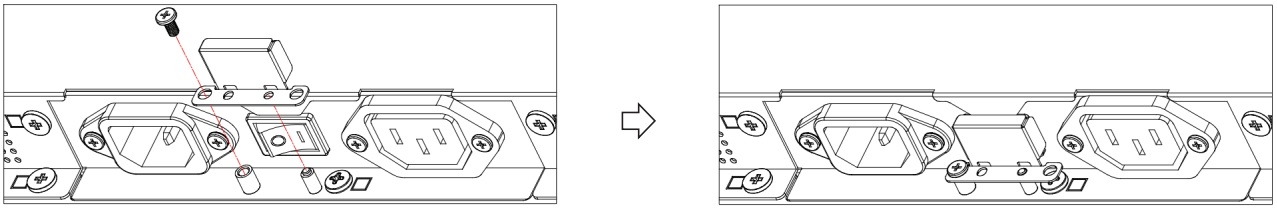
- 推奨される最大 USB スティックサイズ：20（幅）x10（高さ）x60（奥行）mm



3.5. AC スイッチカバー

- AC スイッチカバーを使用して、AC スイッチをカバーします。

1. AC スイッチカバーを取り付けます。
2. 付属のネジで AC スイッチカバーを固定します。



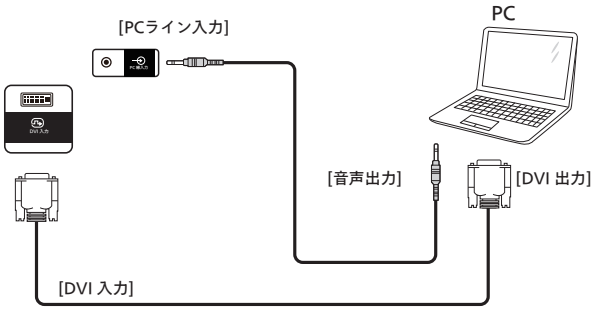
4. 外部機器を接続する

4.1. 外部機器を接続する

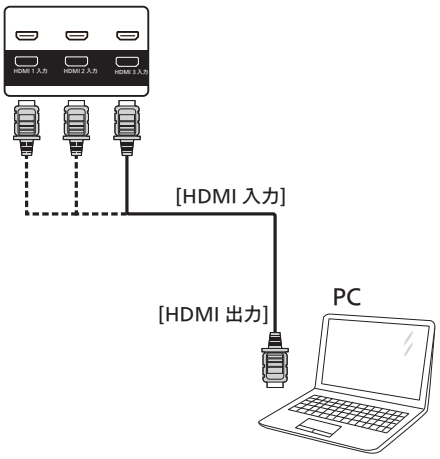
4.1.1. HDMI ビデオ入力の使用

4.2. PC の接続

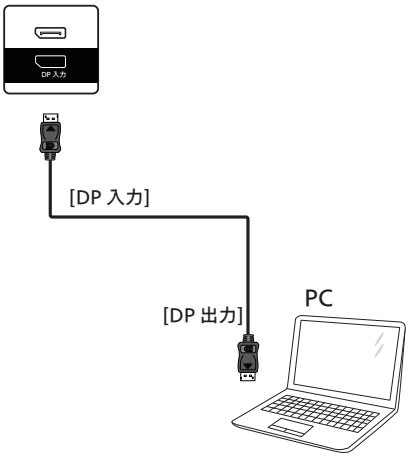
4.2.1. DVI 入力の使用



4.2.2. HDMI 入力の使用



4.2.3. DP 入力の使用

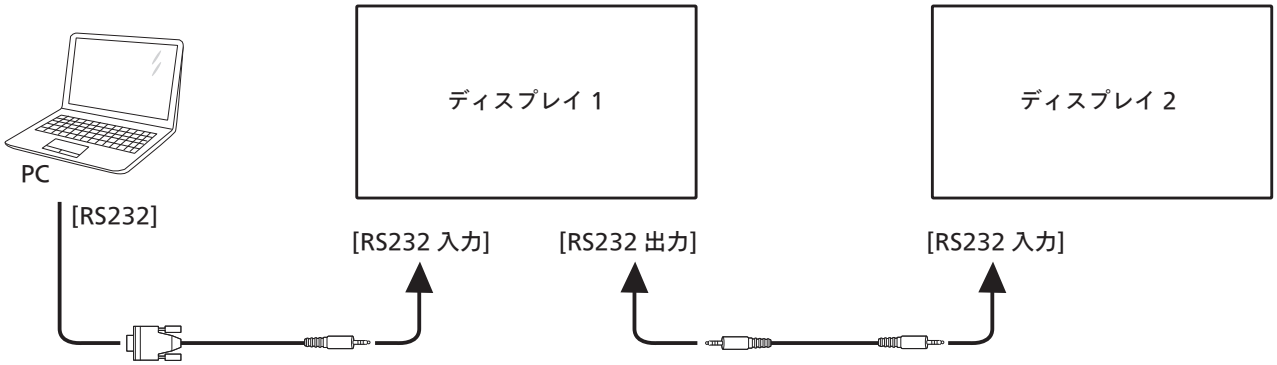


4.3. デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する

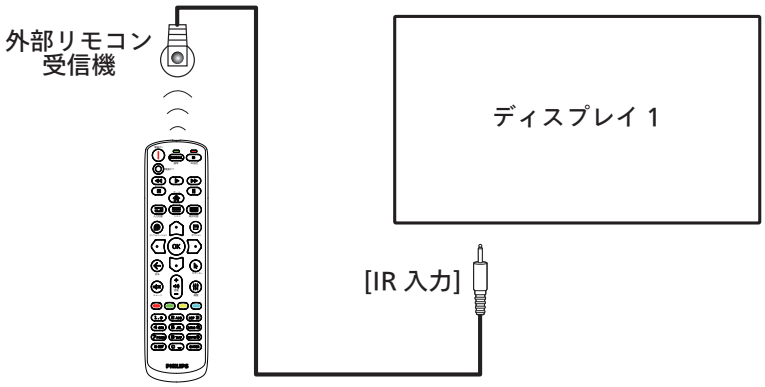
複数のディスプレイを相互接続し、メニューボードなどの用途向けに、デイジーチェーン構成を作成することが可能です。

4.3.1. ディスプレイコントロール接続

ディスプレイ 1 の [RS232 出力] コネクタをディスプレイ 2 の [RS232 入力] コネクタに接続します。



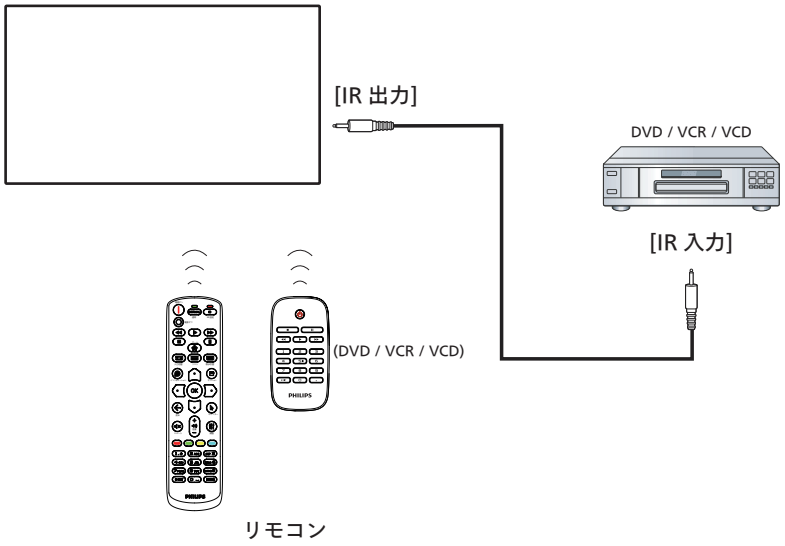
4.4. IR 接続



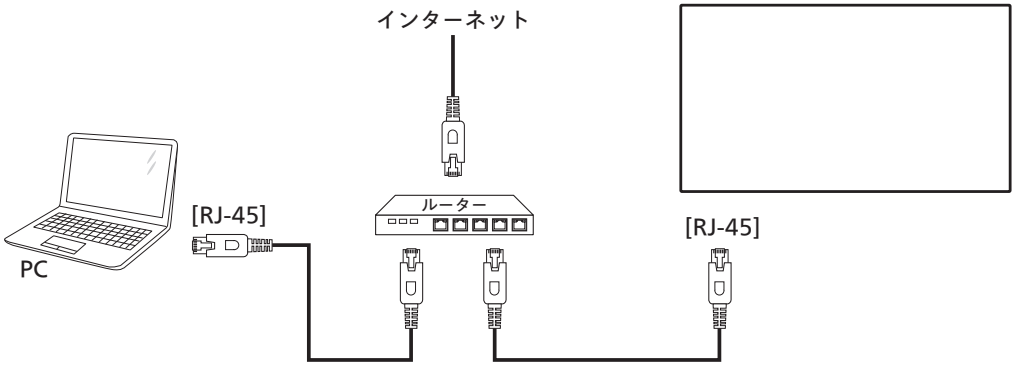
注記:

[IR 入力] が接続されている場合、本ディスプレイのリモコンセンサーは動作を停止します。

4.5. IR パススルー接続



4.6. ネットワークへの接続



ネットワーク設定：

1. ルーターの電源を入れ、DHCP 設定を有効にします。
2. イーサネットケーブルを使って、ルーターを本ディスプレイに接続します。
3. リモコンの [⌂] **ホーム**ボタンを押した後に、**セットアップ**を選択します。
4. **ネットワークに接続する**を選択して、[OK] ボタンを押します。
5. 本ディスプレイがネットワーク接続を検出するまで待ちます。
6. [エンドユーザーライセンス同意書] ウィンドウが表示されたら、同意書を受け入れてください。

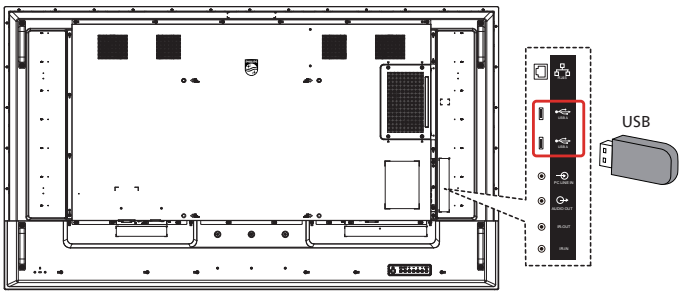
注記： EMC 指令に準拠するため、シールドされた CAT-5 イーサネットケーブルを使って接続してください。

5. 取り扱い

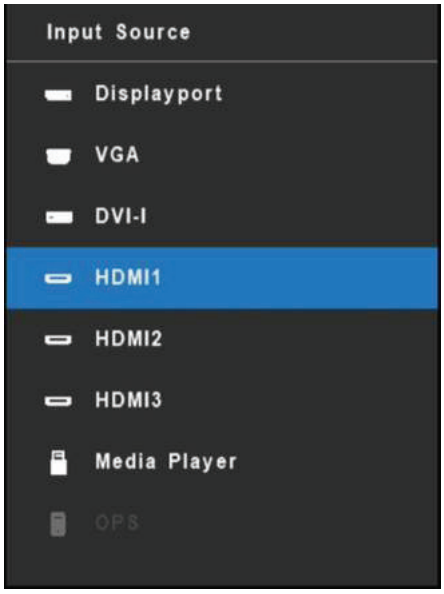
注記: この章で説明されている操作ボタンは、特に記述のない限りリモコン上にあるボタンを指します。

5.1. USB デバイスのマルチメディア ファイルを再生する

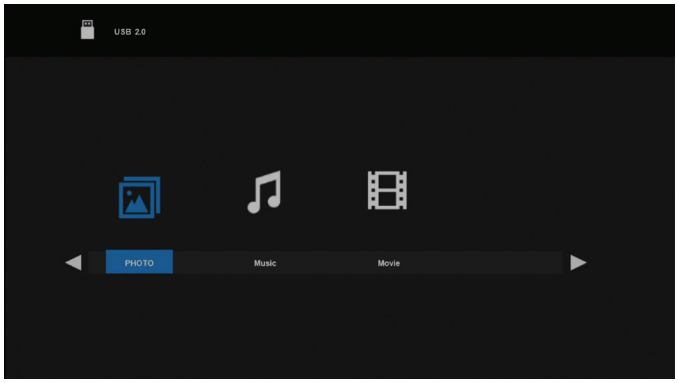
1. 本製品の USB ポートに USB デバイスを接続します。



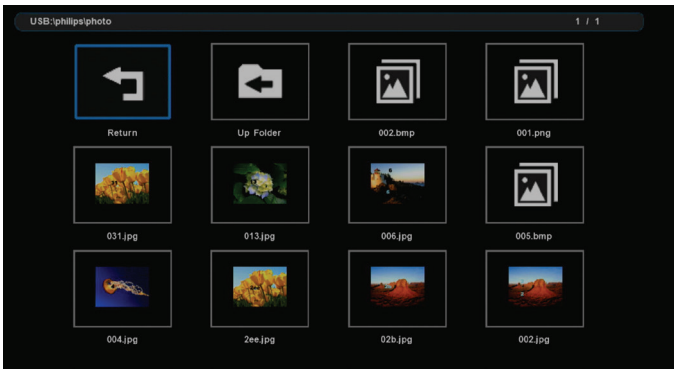
2. [⏎] ソース ボタンを押して、Media Player (メディアプレーヤー) を選択し [OK] ボタンを押します。



3. 接続された USB デバイスの再生可能なファイルは自動的に検出されます。ファイルは自動的に次の 3 つのタイプに分類されます。Photo(写真)、Music(音楽)および Movie(ムービー)。



4. 項目を選択するには [◁] または [▷] ボタンを押します。再生リストを表示するには [OK] ボタンを押します。
5. ファイルを選択するには [⌂]、[▽]、[◁] または [▷] ボタンを押します。再生するには [OK] または [▶] ボタンを押します。
6. 画面上の説明に従って再生オプションを操作します。
7. [再生] ボタン (▶ ⏸ ■ ◀◀ ▶▶) を押して再生を操作します。



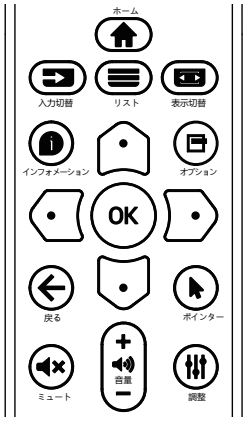
8. 最上位レイヤーに戻るには、[⌂]、[▽]、[◁] または [▷] ボタンを押して、「Return」(戻る) 項目を選択してから、[OK] ボタンを押します。

6. OSD メニュー

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 構造の全体図を以下に示します。この全体図は、ディスプレイをさらに調整する場合の参照として使用できます。

6.1. OSD メニューをナビゲートする

6.1.1. リモコンを使用して OSD メニューをナビゲートする



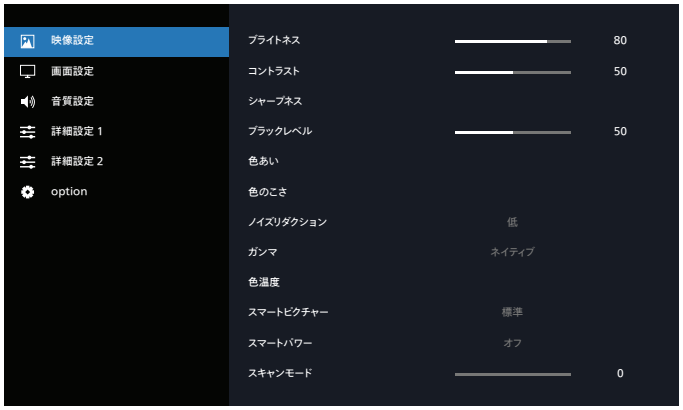
1. リモコン上の [ ] ボタンを押して OSD メニューを表示します。
2. [ ] または [ ] ボタンを押して、調整する項目を選択します。
3. [**OK**] または [ ] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[ ] ボタンまたは [ ] ボタンまたは項目を切り換えて、[ ] ボタンまたは [ ] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[**OK**] または [ ] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [ ] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[ ] ボタンを押して OSD メニューを終了します。

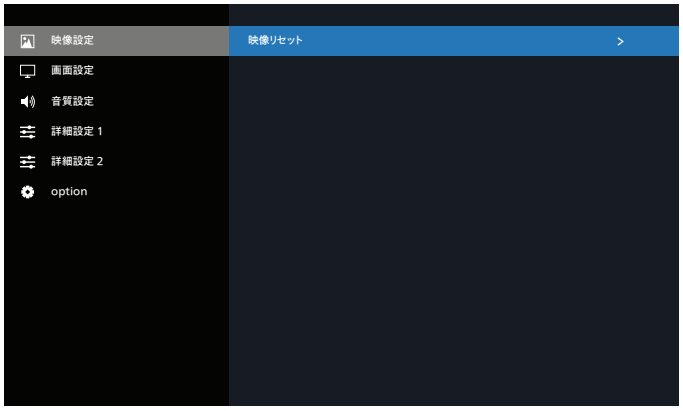
6.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用して、OSD メニューをナビゲートする

1. [**メニュー**] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
2. [＋] ボタンもしくは [ー] ボタンを押して、調整したい項目を選択します。
3. [＋] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニュー内では、[▲] ボタンまたは [▼] ボタンまたは項目を切り換えて、[＋] ボタンまたは [ー] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合には、[＋] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. **[メニュー]** ボタンを押して直前のメニューに戻るか、または **[メニュー]** ボタンを押して OSD メニューを離れます。

6.2. OSD メニューの概要

6.2.1. 映像設定メニュー





ブライトネス

本ディスプレイのバックライトの明るさを調整します。

コントラスト

入力信号に対する画像のコントラスト比を調整します。

シャープネス

この機能により、常に鮮明な画像をデジタルで保持することができます。

画像モードごとに画像のシャープネスを調整します。

ブラックレベル

背景用の画像の輝度を調整します。

注記 :sRGB 映像設定モードは標準であり、変更することができません。

色合い（色調）

画像の色合いを調整します。

[+] ボタンを押すと、肌色が緑色に変わります。

[-] ボタンを押すと、肌色が紫色に変わります。

注記：ビデオモードのみ。

色（彩度）

画像の色のこさを調整します。

[+] ボタンを押して、色のこさを増やします。

[-] ボタンを押して、色のこさを減らします。

注記：ビデオモードのみ。

ノイズリダクション

ノイズリダクションレベルを調整します。

ガンマ

ディスプレイガンマを選択します。信号入力の輝度性能曲線を指します。{ ネイティブ } / {2.2} / {2.4} / {S gamma} / {D-image} から選択します。

注記 :sRGB 映像設定モードは標準であり、変更することができません。

色温度

色温度を調整するために使用します。

色温度が下がると画像は赤みを帯び、色温度が上がると青みを帯びます。

スマートピクチャー

PQ 設定

{ 標準 }/{ 高輝度 }/{Warm}。

スマートパワー

スマートパワー制御は、輝度制御に相対的ではありません。

1. ブライトネスの初期設定
   消費電力は最大消費電力の 70% に設定されます。
2. スマートパワー
   オフ:適応されません。
   中:消費電力は現在の設定の最大値を基準として 65% に設定されます。
   高:消費電力は現在の設定の最大値を基準として 80% に設定されます。

スキャンモード

本ディスプレイの画像領域を変更します。

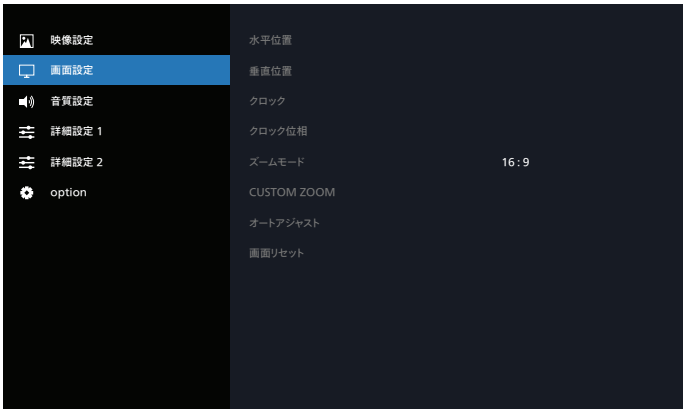
映像リセット

映像設定メニューですべての設定をリセットします。

「はい」を選択し、「設定」ボタンを押して、工場出荷時プリセットデータを復元します。

「終了」ボタンを押して、キャンセルし、前のメニューに戻ります。

6.2.2. 画面設定メニュー



水平位置

LCD の表示領域内に画像の水平位置を制御します。

[+] ボタンを押して、画面を右に移動します。

[-] ボタンを押して、画面を左に移動します。

注記:VGA 入力のみ。

垂直位置

LCD の表示領域内に画像の垂直位置を制御します。

[+] ボタンを押すと画面が上に移動します。

[-] ボタンを押すと画面が下に移動します。

注記:VGA 入力のみ。

クロック

[+] ボタンを押すと、画面上の画像の幅が右に拡張します。

[-] ボタンを押すと、画面上の画像の幅が左に縮小します。

注記:VGA 入力のみ。

クロック位相

この設定を増やすまたは減らすことにより、焦点、鮮明度、および、画像の安定性を改善します。

注記:VGA 入力のみ。

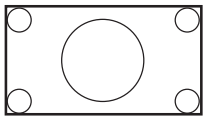
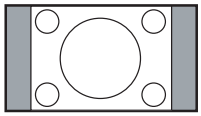
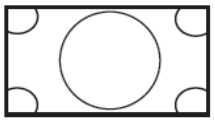
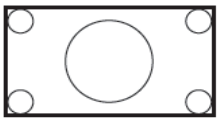
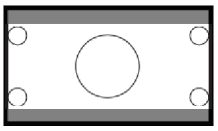
ズームモード

PC モード:{ フル } / {4:3} / {1:1} / {16:9} / { カスタム }。

ビデオモード:{ フル } / {4:3} / {1:1} / {16:9} / { カスタム }。

* ズームモード設定は、入力により定義されます。入力が複数のウィンドウで行われる場合、設定はすべてのウィンドウに同じ入力で適用されます。

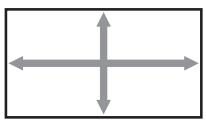
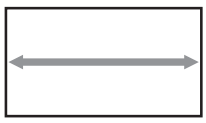
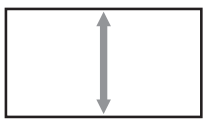
情報 OSD には、最新設定が表示されます。

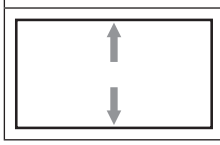
	**フル** このモードでは、全画面表示を使用して、16:9 で送信された映像を正しい映像比に戻します。
	**4:3** この画像は 4:3 フォーマットで再現され、画像の両側には黒い部分が表示されます。
	**1:1** このモードでは、オリジナルの画像サイズを変えることなく、画面に画素ごとの画像を表示します。
	**16:9** この映像は 16:9 フォーマットで再現され、上下には黒い部分が表示されます。
	**カスタム** 選択すると [CUSTOM ZOOM] サブメニューでカスタムズーム設定を適用します。

CUSTOM ZOOM

この機能は、表示したい画像に合わせるため、ズーム設定をカスタマイズするのに使用できます。

注記: この項目は { **ズームモード** } 設定が { **カスタム** } に設定されているときにのみ機能します。

	**ズーム** 画像の縦と横のサイズを同時に拡大します。
	**水平ズーム** 画像の水平サイズのみを拡大します。
	**垂直ズーム** 画像の垂直サイズのみを拡大します。

	水平位置 画像の水平位置を左右に移動します。
	垂直位置 画像の垂直位置を上下に移動します。

オートアジャスト

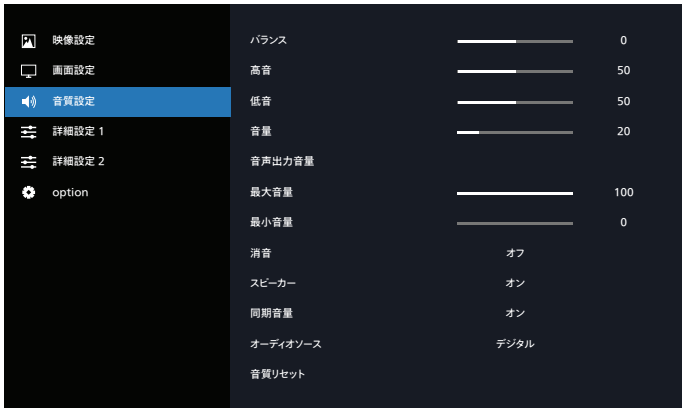
「設定」を押すと、水平位置、垂直位置、クロック、位相を自動的に検出して調整します。

注記：VGA 入力のみ。

画面リセット

画面設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.3. 音質設定



バランス

左右の音声出力のバランスの強弱を調整します。

高音

高音の増減を調整します。

低音

低音の増減を調整します。

音量

音量を調整します。

音声出力音量

ライン出力の音声出力レベルの増減を調整します。

最小音量 ≤ 音量 ≤ 最大音量

注記：オーディオ出力同期がオンの場合、この機能は無効になります。

最大音量

最大音量設定に独自の制限を付けて調整します。

最小音量

最小音量設定に独自の制限を付けて調整します。

消音

消音機能のオン / オフを切り替えます。

スピーカー

内部スピーカーの電源のオン / オフを切り替えます。

注記：この機能は、「オーディオ出力同期」がオンの場合にのみ使用できます。

同期音量

音声出力 (ライン出力) の音量調整機能を有効 / 無効にして、内部スピーカーと同期しますが、PD 内部スピーカーの音は強制的に消音されます。

オーディオソース

オーディオ入力ソースを選択します。

アナログ：オーディオ入力からの音声。

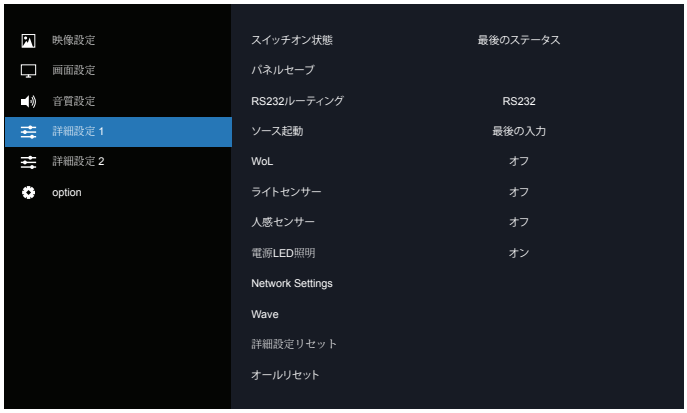
デジタル：HDMI/DVI オーディオからの音声

Displayport: DP からの音声。

音質リセット

音質設定メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.4. 詳細設定 1 メニュー



スイッチオン状態

次回電源コードを接続するときのディスプレイの状態を選択します。

- { 電源オフ } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオフのままになります。
- { 強制オン } - 電源コードが壁コンセントに接続されているとき、ディスプレイはオンのままになります。
- { 最後のステータス } - 電源コードを外して再び取り付けると、ディスプレイは前の電源ステータス (オン / オフ / スタンバイ) に戻ります。

パネルセーブ

パネルの焼き付きやゴーストの発生を抑えるために、Panel saving を有効にしてください。

- { ブライトネス } - { オン } を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに減少されます。選択されているとき、映像設定メニューのブライトネス設定は使用できなくなります。
- { ピクセルシフト } - 画像のサイズを変更したり、上下左右に画像をずらすための時間間隔を設定します。{自動}/{10 ～ 900}秒 /{オフ}

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択します。

こちらより選択します：{RS232} / {LAN ->RS232}。

ソース起動

起動時にソースを選択します。

- 入力：起動時に入力ソースを選択します。
- プレイリスト：メディアプレーヤーソースに対する再生一覧のインデックスを選択します。

なし：{OPTION}

-> { 自動再生 } に依存する再生一覧の自動再生機能はありません。

1 ～ 7:プレイリストの番号。
自動再生:自動再生機能。

WoL

Wake on LAN 機能をオンまたはオフを選択します。
こちらより選択します:{ オフ } / { オン }

ライトセンサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

環境の明るさに応じて、バックライト調整のオンまたはオフへの切り替えを選択します。
こちらより選択します:{ オフ } / { オン }

人感センサー (Philips アクセサリー CRD41 外部センサーボックスが必要です)

この機能は、人の存在を感知するとバックライトをオンにし、一定時間後にオフにします。
オプションは次の通りです:

- { オフ }(デフォルト),{10 Min.},{20 Min.},{30 Min.},{40 Min.},{50 Min.},{60 Min.}

電源 LED 照明

インジケータをオフにするには { **オフ** } を選択します。

Network Settings

- DHCP 有効 -> IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを変更できません
- DHCP 無効 -> IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを手動で入力できます。

Wave (ウェーブ)

- {Claim Status (クレームステータス)} - ウェーブから取得します。(クレーム済み / クレームなし)
- {Claim Code (クレームコード)} - ウェーブからの6桁の番号を表示します。
- {Serial No. (シリアル番号)} - スケーラーのシリアル番号を表示します。
- {CTN} - スケーラーのモデル名を表示します。
- {Enter Claim Code (クレームコードを入力)} - デジタルエントリを入力します。
- {SET (設定)} - クレームコードをウェーブに設定します。
- {Error Code (エラーコード)} - ウェーブから取得したエラーコードを表示します。

詳細設定リセット

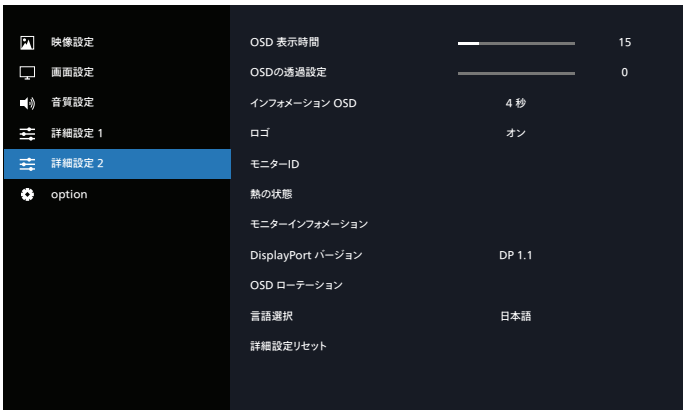
詳細設定 1 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

オールリセット

OSD メニューの中のすべての設定、{ 映像設定 }、{ 画面設定 }、{ 音質設定 }、{ 子画面設定 }、{ 詳細設定 1}、{ 詳細設定 2}、{Advanced option (アドバンスドオプション)} を工場出荷時の値にリセットします。

[◁] または [▷] ボタンを押して { リセット } を選択し、[OK] を押してリセットします。

6.2.5. 詳細設定 2 メニュー



OSD 表示時間

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューが画面に表示される時間を設定します。
オプションは次の通りです:{5 ～ 100} 秒。

OSD の透過設定

OSD の透明度を調整します。

- {0} - 透過設定はオフです。
- {1-100} - 透明度レベル 1 ～ 100。

インフォメーション OSD

画面の右上部に情報 OSD が表示する時間を設定します。インフォメーション OSD は入力信号が変更されると表示されます。
インフォメーション OSD は { オフ } を選択すると画面に残ります。
オプションは次の通りです:{1 ～ 60} 秒。

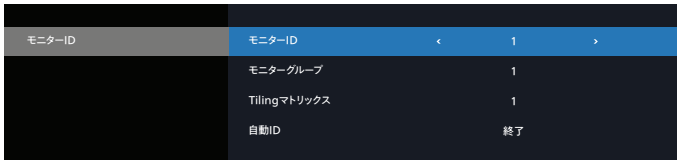
ロゴ

ディスプレイをオンにしたときにロゴの画像を有効または無効にすることを選択します。
オプションは次の通りです:{オフ} / {オン}

モニター ID

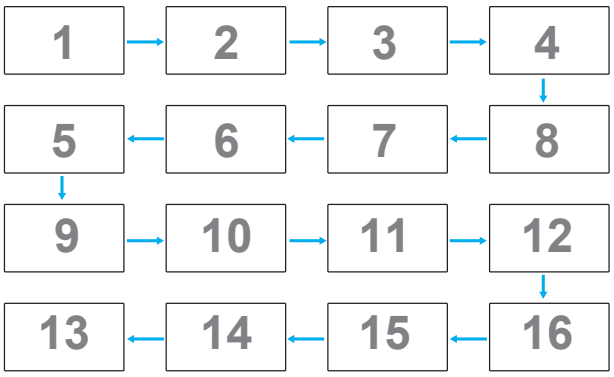
RS232 接続経由で本製品を制御するための ID 番号を設定します。本製品を複数台接続する場合には、各ディスプレイに一意の ID を割り当てることが必要です。モニター ID の番号範囲は 1 ～ 255 の間です。

- {1-255} – { モニター ID} デフォルト設定は 1 です。
- {1-254} – { モニターグループ } デフォルト設定は 1 です。
- {1-15} – {Tiling マトリックス } デフォルト設定は 1 です。
- { 自動 ID} { 自動 ID} 設定機能では、{Tiling マトリックス } 設定に従って接続されたマシンの { モニター ID} を設定することができます。例:Tiling マトリックスは 4 として設定されます。
- {Tiling マトリックス }: Tiling マトリックスの番号範囲は 1 ～ 15 の間です。デフォルト設定は 1 です。



- { 自動 ID}: オプションは次の通りです。{ 開始 } / { 終了 }。デフォルトは { 終了 } です。
- 開始オプションに切り替えると、マシンの ID は現在の ID から前に戻って設定されます。
  設定が完了すると、オプションは自動的に終了します。

この機能を使用するには、すべてのマシンを RS-232 ケーブルでシリアル接続し、その制御ポートを RS-232 に設定します。



熱の状態

この機能により、いつでも温度状態を確認することができます。

モニターインフォメーション

入力ソース、解像度、Model Name、SW Version、シリアル番号、Operation Hours、MAC アドレスなどのディスプレイに関する情報を表示します。

DisplayPort バージョン

DisplayPort はモードをサポートします。

オプションは次の通りです：

- {DP 1.1}（デフォルト）：DP 1.1 シングルストリーム（複製モード）
- {DP 1.2}: DP 1.2

注記：

1. DisplayPort バージョンは、すべてでのデイジーチェーンディスプレイについて同一に設定しなければなりません。
2. 3840x2160 の場合、ドットクロックのタイミングは 533 MHz である必要があります。
3. DP 1.1 は 4K/60 Hz タイミングをサポートしていません。

注記：DP 入力のみ。

HDMI EDID

HDMI EDID タイプをの切り替えます：{HDMI 1.4}、{HDMI 2.0}。

注記：HDMI 入力のみ。

OSD ローテーション

横長 / 縦長

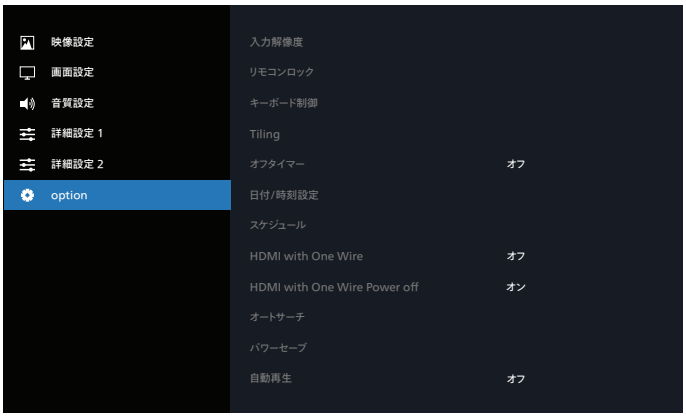
言語選択

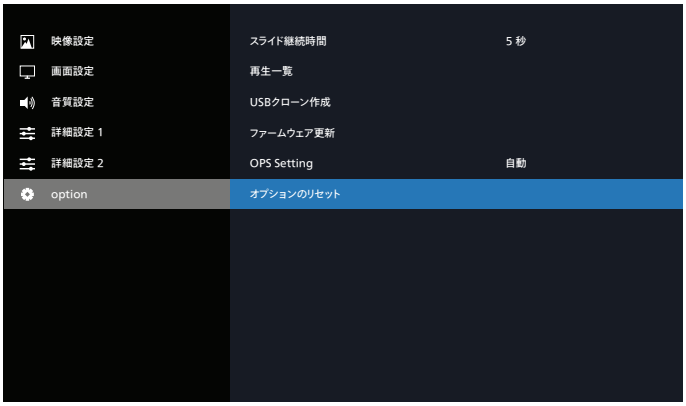
OSD メニュー言語を設定します。

詳細設定リセット

詳細設定 2 メニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

6.2.6. オプション





入力解像度

VGA 入力の解像度を設定します。これは、本製品が VGA 入力解像度を正しく検出できない場合にのみ必要です。

注記：　この項目は VGA 入力でのみ有効です。

オプションは次の通りです：

- {1024x768 / 1280x768 / 1360x768 / 1366x768}
- {1400x1050 / 1680x1050}
- {1600x1200 / 1920x1200}
- { 自動 }：解像度を自動的に決定します。

選択された設定は、電源を入れ直した後で有効となります。

リモコンロック

RS232C 接続によって複数のディスプレイが接続されている場合、リモート制御の操作モードを選択します。

- { ノーマル } - すべてのディスプレイは、リモコンで正常に動作させることができます。
- {Primary}（プライマリ） - このディスプレイを、リモコン操作用の 1 次ディスプレイとして指定します。リモコンでは、このディスプレイのみを操作できます。（Primary モードでは、常に、IR キーは、モニター ID/ グループ設定にかかわらず処理されます）。
- {Secondary}（セカンダリ） - このディスプレイを 2 次ディスプレイとして指定します。このディスプレイはリモコンでは操作できず、RS232C 接続を通して 1 次ディスプレイからの制御信号のみを受信します。
- { すべてロック }/{ 音量以外すべてロック }/{ 電源以外すべてロック }/{ 電源と音量以外を全ロック } - このディスプレイのリモコン機能をロックします。ロック解除するには、リモコンの [❶] INFO ボタンを 6 秒間長押しします。

キーボード制御

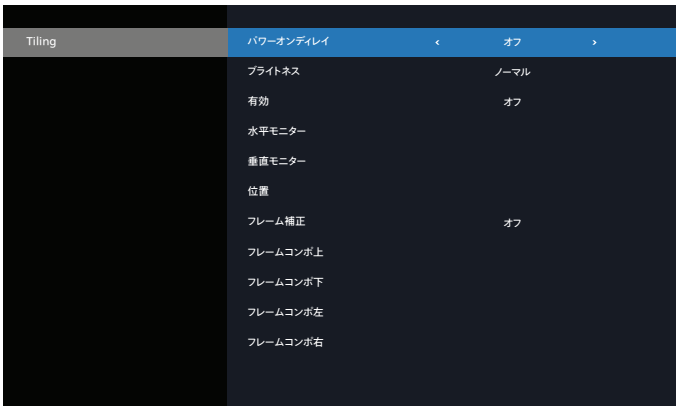
このボタンを選択すると、キーボード（コントロールボタン）機能が有効または無効になります。

- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源と音量以外を全ロック } - キーボード機能を無効にします。

注記: 「キーボードコントロールロックモード」この機能は、すべてのキーボード制御機能へのアクセスを完全に無効にします。キーボードコントロールロックの有効 / 無効を切り替えるには、[＋] と [▲] ボタンを 3 秒以上押し続けます。

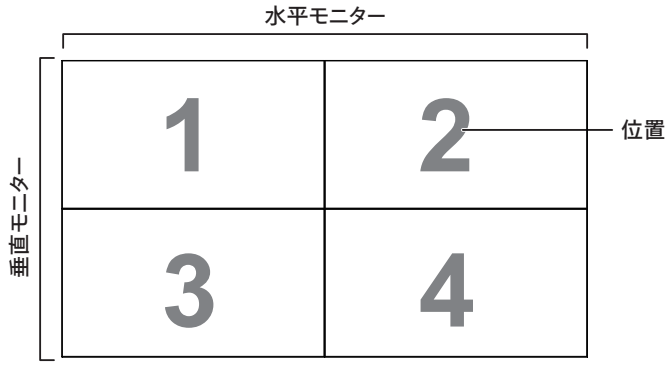
Tiling

この機能を使うと、最大 225 台のディスプレイ (縦に最大 15 台、横に最大 15 台) からなるひとつの大型スクリーン配列 (ビデオウォール) で作成することができます。この機能にはデイジーチェーン接続が必要です。

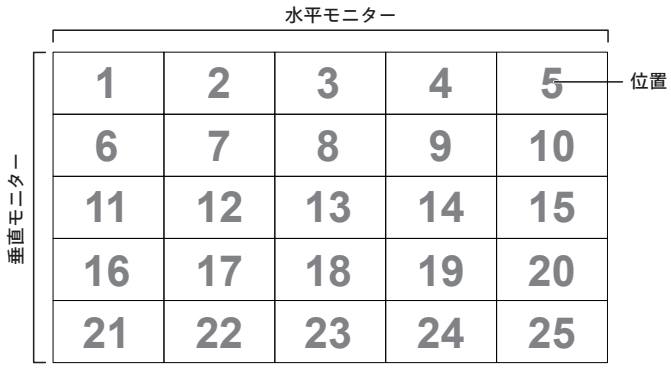


- パワーオンディレイ
  パワーオンディスプレイ時間 (秒) を設定します。複数台のディスプレイが接続されている場合、デフォルトのオプション { 自動 } を使って、ID 番号に従って各ディスプレイを順番にパワーオンすることができます。
  オプションは : { オフ (0)/ 自動 (1)/2 ～ 255} です
- ブライトネス:{ ノーマル }/{ACS}
  { ノーマル }:全体的な画像と背景画面のブライトネス(バックライト)を調節します。
  {ACS}:自動校正システム。調整前のデフォルト値は、OSD ブライトネス値と同じです(例えば、70)。
- 有効
  有効タイル機能を有効または無効にします。{ **オン** } の場合、本ディスプレイは { **水平モニター** }、{ **垂直モニター** }、{ **位置** }、および { **フレーム補正** } の設定を適用します。
- 水平モニター
  水平側のディスプレイ数を選択します。
- 垂直モニター
  垂直側のディスプレイ数を選択します。
- 位置
  画面マトリックス内の本製品の位置を選択します。

例:2 x 2 の画面マトリックス (ディスプレイ 4 台)
水平モニター = 2 ディスプレイ
垂直モニター = 2 ディスプレイ



例:5 x 5 の画面マトリックス (ディスプレイ 25 台)
水平モニター = 5 ディスプレイ
垂直モニター = 5 ディスプレイ



- フレーム補正
  フレーム補正機能をオンまたはオフにするかを選択します。{ **オン** } を選択した場合、画像を正確に表示するためにディスプレイは画像を調整してディスプレイのベゼル幅を補正します。
- フレームコンポ上
  上フレーム補正を調整します。
- フレームコンポ下
  下フレーム補正を調整します。
- フレームコンポ左
  左フレーム補正を調整します。
- フレームコンポ右
  右フレーム補正を調整します。

オフタイマー

電源の自動オフ時間を設定します

日付 / 時刻設定

本製品の内部時計に設定された現在の日付と時刻を設定します。

メモ:

サマータイム設定の定義と動作 :

現在のサマータイム設定は、時計でサマータイムのオン / オフを調整する方法を知らないユーザー向けのリマインダーツールとして動作します。

これは、実際の時計を自動的に調整しません。問題は、地域または国で定義された時計を調整するときの標準ルールがないことです。この問題を解消するため、サマータイムの開始日と終了日をユーザーが設定できる必要があります。サマータイム補正がオンになっている場合 (ユーザーが選択可能)、実際の時計はサマータイムをオンおよびオフする日付として設定されている時刻に調整する必要があります。サマータイム設定の開始日の 2 時に時計を 1 時間進めてください。サマータイム設定の終了日の 2 時に時計を 1 時間遅らせてください。

既存のサマータイムオン / オフメニュ項目が以下のメニュー構造に置き換えられます :

メニュー項目 { サマータイム } に、以下の項目が含まれたサブメニューが開きます :

- メニュー項目 { **サマータイム開始日** } 選択項目 {**1 番目、2 番目、3 番目、4 番目、最後** } 日曜日の選択項目 {**1 ～ 12 月** }
- メニュー項目 { **サマータイム終了日** } 選択項目 {**1 番目、2 番目、3 番目、4 番目、最後** } 日曜日の選択項目 {**1 ～ 12 月** }
- メニュー項目 { **補正時間** } 選択項目 {**0.5、1.0、1.5、2.0**} 時間
- メニュー項目 { サマータイム } 選択項目 { **オン、オフ** }

{ サマータイム } が「オン」の場合、サマータイム設定 (2015 年 4 月 5 日の 2 時に時刻が 1 時間遅く設定される、または、2015 年 10 月 25 日の 2 時に時刻が 1 時間早く設定されるなど) で、実際の時計が自動的に調整されるはずです。

スケジュール

この機能により、最大 7 つの異なるスケジュールされた時間間隔で本製品をアクティブにするプログラムができるようになります。

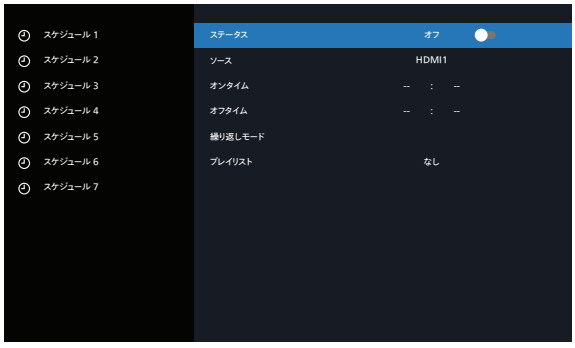
以下の選択が可能です :

- 本製品を電源オン、電源オフにする時間。
- 本ディスプレイを有効にする曜日。
- スケジュールされた各稼働期間で、本製品が使用する入力ソース

注記: この機能を使用する前に、{ **日付 / 時刻設定** } メニューで現在の日付と時刻を設定することをおすすめします。

1. [OK] または [▷] ボタンを押して、サブメニューに入ります。

2. [△] または [▽] ボタンを押してスケジュール項目（1-7 の項目番号）を選択し、[OK] または [▷] ボタンを押して、サブメニューに入ります。



- { **ステータス** } - [◁] または [▷] ボタンを押して、ステータスオンまたはオフを選択します。
- { **ソース** } - [◁] または [▷] ボタンを押して、入力ソースを選択します。
- { **オンタイム** } - [△] または [▽] ボタンを押して調整すると、指定した時間にディスプレイがオンになります。
- { **オフタイム** } - [△] または [▽] ボタンを押して調整すると、指定した時間にディスプレイがオフになります。
  電源オンまたは電源オフのスケジュール機能を使用しない場合は、時間と分のオプションを空のままにします。
- { **繰り返しモード** } - [▷] ボタンを押して、このスケジュール項目が何曜日に有効になるか選択し、次に [OK] ボタンを押します。

  注記:

  スケジューラーは、繰り返しがないか、1 つのスケジュール日のみが選択されている場合、1 つのスケジュールで深夜を超えて作業することはできません。

3. さらにスケジュール設定を行うには、[←] を押して、上記のステップを繰り返します。スケジュール項目の番号の横にあるボックスの中のチェックマークは、選択されたスケジュールが有効であることを示しています。

メモ:

- スケジュールが重なった場合、スケジュールされた電源 ON 時間がスケジュールされた電源 OFF 時間よりも優先されます。
- 同じ時間に 2 つのスケジュール項目がプログラムされている場合、番号の高いスケジュールが優先されます。例えば、項目 1 と項目 2 の両方が、本製品を朝 7 時に電源オン、夕方 5 時に電源オフする設定されている場合、スケジュール項目 2 のみが有効となります。

HDMI with One Wire

CEC 制御。

- { **オフ** } - CEC を無効にします。(デフォルト)
- { **オン** } - CEC を有効にします。

HDMI with One Wire Power off

{HDMI with One Wire} がオンの場合に使用できます。

- { **オフ** } - システムスタンバイが無効になります。(デフォルト)
- { **オン** } - システムスタンバイが有効になります。

オートサーチ

この機能により、ディスプレイは利用可能な信号源を自動的に検出して表示することができます。

- { **オフ** } - 入力が接続されると、手動での選択のみとなります。

選択した入力からの信号がある場合は、システムが各オプションの検索順序に従って自動的に画像を表示するように設定します。

オプションは次の通りです :{ **自動** } / { **フェールオーバ** }

- { **自動** }: Dispalyport->VGA->DVI-I->HDMI1->HDMI2->HDMI3->Media Player (メディアプレーヤー)
- { **フェールオーバ** }
  - **フェールオーバー 1:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 2:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 3:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 4:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 5:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 6:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**
  - **フェールオーバー 7:ユーザー定義の設定。デフォルト: HDMI1。**

プライマリ信号が失われた場合、ディスプレイは、優先順位リストで定義されている次に使用可能なソースを検索することにより、フェールオーバーを開始します。

ただし、次のような場合、フェールオーバーは一時停止します。再度信号が失われると再開します。

- **ソース起動:ディスプレイの電源がオンになると、この OSD オプションで定義されたソースに移動します。**

- **スケジューラー : スケジューラーによってディスプレイの電源がオンになると、現在の時刻に従って対応するソースに移動します。**
- **ユーザー操作 : 現在のソースが何であっても、ユーザーが手動でソースを変更すると、フェールオーバは一時停止します。**

電源投入後に第 1 優先ソースからフェールオーバが開始されるようにするには、第 1 優先ソースもソース起動として設定してください。

パワーセーブ

モード 1 : [TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

モード 2 [TCP オフ、WOL オン、自動オン / オフ]

モード 3 : [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

モード 4 : [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

自動再生

ソースタイプの再生を選択します。オプションは次の通りです : { オフ } / {SD}/ {USB}。

注記 :

USB 自動再生を使用するには

1.USB ディスクに「autoplay」という名前のフォルダを作成します。

2.「autoplay」フォルダにアルファベットとデジタルという名前のソース (PHOTO/Movie) を入れます。

3. 起動するか、システムに USB を挿入すると、USB 自動再生機能が自動的に開始されます。

スライド継続時間

自動再生と再生一覧の各画像の長さ。

再生一覧

再生する再生一覧を 1 つ選択し、最大 7 つの再生一覧をサポートします。

注記 :

USB 再生一覧を使用するには

1.USB ディスクに「playlistN」という名前のフォルダを作成します。

(N はプレイリスト番号 1 ～ 7 を意味します。例 : USB Play List 1 : USB の「playlist1」フォルダ)

2.「playlistN」フォルダにアルファベットとデジタルという名前のソース (PHOTO/Movie) を入れます。

USB クローン作成

ディスプレイの設定を別のディスプレイにコピーします。
Import(インポート) : 別のセットから設定をインポートします。
Export(エクスポート) : 設定を別のセットにエクスポートします。

Firmware update (ファームウェアの更新)

SD または USB ディスクを介してファームウェアを更新します。

オプションのリセット

オプションメニューのすべての設定を工場出荷時の値にリセットします。

7. 対応するメディア形式

USB マルチメディアのフォーマット

ビデオ形式		
ビデオ コーデック	解像度	ビットレート
MPEG1/2	1080P@30fps	40Mbps
H.264	4096x2160@60fps	135Mbps
HEVC/H.265	4096x2176@60fps	100Mbps
WMV3	1080P@30fps	40Mbps
Motion JPEG	640x480@30fps	40Mbps

オーディオ形式			
オーディオ コーデック	サンプリングレート	チャンネル	ビットレート
MPEG1/2 Layer1	16KHz ～ 48KHz	最大 2 つ	32Kbps ～ 448Kbps
MPEG1/2 Layer2	16KHz ～ 48KHz	最大 2 つ	8Kbps ～ 384Kbps
MPEG1/2 Layer3	16KHz ～ 48KHz	最大 2 つ	8Kbps ～ 320Kbps
AAC、HEAAC	8KHz ～ 48KHz	最大 5.1 つ	32Kbps ～ 448Kbps

画像形式	
画像	最大解像度
JPEG	3840x2160
PNG	3840x2160
BMP	3840x2160

メモ:

- コンテンツが上記のテーブルに記された対応フレーム / 秒以上の標準ビットレート / フレーム率である場合、音声や動画が作動しない可能性があります。
- コンテンツが上記のテーブルに記述された比率以上のビットレートやフレーム率である場合、再生すると途切れがちの映像になる可能性があります。

HDCP サポートテーブル

入力ソース	HDMI バージョン	HDCP 1.4	HDCP 2.2
DVI	HDMI 1.4b	V	X
HDMI1	HDMI 1.4b	V	X
	HDMI 2.0	V	V
HDMI2	HDMI 1.4b	V	X
	HDMI 2.0	V	V
HDMI3	HDMI 1.4b	V	X
	HDMI 2.0	V	V

8. 入力モード

タイミングサポート:

項目	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
1	720 × 400 @70Hz DOS	31.469	70.087
2	640 × 480 @60Hz DMT	31.469	59.94
3	640 × 480 @67Hz MAC	35	66.667
4	640 × 480 @72Hz DMT	37.861	72.809
5	640 × 480 @75Hz DMT	37.5	75
6	800 × 600 @56Hz DMT	35.156	56.25
7	800 × 600 @60Hz DMT	37.879	60.317
8	800 × 600 @72Hz DMT	48.077	72.188
9	800 × 600 @75Hz DMT	46.875	75
10	1024 × 768 @60Hz DMT	48.363	60.004
11	1024 × 768 @70Hz DMT	56.476	70.069
12	1024 × 768 @75Hz DMT	60.023	75.029
13	1152 × 864 @75Hz DMT	67.5	75
14	1152 × 870 @75Hz MAC	68.681	75.062
15	1280 × 720 @60Hz CVT16:9	44.772	59.855
16	1280x800 @60Hz CVT16:10	49.702	59.81
17	1280 × 1024 @60Hz DMT	63.981	60.02
18	1440 × 900 @60Hz CVT16:10 R	55.469	59.901
19	1440 × 900 @60Hz CVT16:10	55.935	59.887
20	1600 × 1200 @60Hz CVT16:9	75	60
21	1680 × 1050 @60Hz CVT16:9 R	64.674	59.883
22	1680 × 1050 @60Hz CVT16:9	65.29	59.954
23	1920 × 1080 @60Hz CVT-RB / XBOX360	66.7	60
24	1920 × 1080 @60Hz DMT-RB	67.5	60
25	480P@60Hz	31.469	59.94
26	720P@60Hz	44.955	59.94
27	1080I@60Hz	33.716	59.94
28	1080P@60Hz	67.433	59.94
29	576P@50Hz	31.25	50
30	720P@50Hz	37.5	50
31	1080I@50Hz	28.125	50.08
32	1080P@50Hz	56.25	50
33	3840x2160@30	67.5	30
34	3840x2160@60	135	60

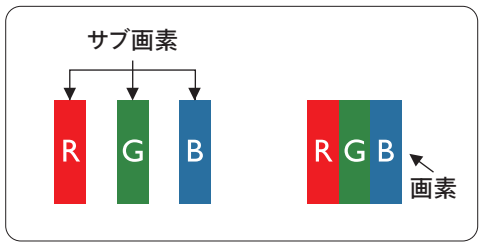
- PC のテキスト品質は、UHD モード（3840 x 2160、60Hz）で最適です。
- お使いの PC ディスプレイ画面は、メーカー（および Windows の特定のバージョン）により異なって表示されることがあります。
- PC をディスプレイに接続する情報については、お使いの PC の取扱説明書を確認してください。
- 垂直と水平の周波数選択モードが存在する場合、60Hz（垂直）と 31.5KHz（水平）を選択します。場合によって、PC の電源がオフの場合 (または PC が接続されていない場合) に異常な信号 (筋など) が画面に表示されることがあります。その場合はディスプレイ本体の「入力」ボタンを押してビデオモードに入ります。また、PC が接続されていることを確認してください。
- 水平同期信号が RGB モードで不規則に見えるときは、PC の省電力モードまたはケーブル接続を確認してください。
- 本ディスプレイの設定表は IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- DVI サポートモードは PC サポートモードと同じと見なされます。
- 各モードの最適な垂直周波数は 60Hz です。

9. 画素欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けすることを目指して、業界でもっとも進んだ製造プロセスと可能な限りもっとも厳しい品質管理を採用しています。しかしながら、プラズマおよび LCD ディスプレイで使用される PDP/TFT パネルの画素またはサブ画素に欠陥が生じるのはやむを得ない場合があります。すべてのパネルに画素欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、Philips では保証期間中であれば、地域の保証条件と一致して、受け入れられない数の欠陥があるプラズマおよび LCD ディスプレイを修理または交換することを保証します。

この通知はさまざまな種類の画素欠陥を説明し、LCD 画面について受け入れられる欠陥レベルを定義するものです。保証に基づき修理の資格を得るには、欠陥画素の数が参照表で示した特定のレベルを超えている必要があります。LCD 画面が仕様の範囲内である場合、保証による交換 / 返金はお断りいたします。また、ある種類または組み合わせの画素欠陥が他のものより顕著であることもあるため、Philips ではこれらのものに対してより高い品質規格を設定しています。

9.1. 画素とサブ画素



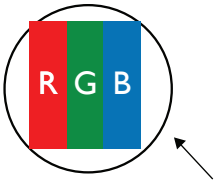
画素、または画像要素は赤、緑、青の原色の 3 つのサブ画素で構成されています。多くの画素が集まって画像を形成します。画素のすべてのサブ画素が明るいと、3 つの色の付いたサブ画素が 1 つの白い画素として一緒に表示されます。すべての画素が暗くなると、3 つの色の付いたサブ画素は 1 つの黒い画素として集まって表示されます。点灯するサブ画素と暗いサブ画素のその他の組み合わせは、他の色の 1 つの画素として表示されます。

9.2. 画素欠陥の種類 + ドット定義

画素とサブ画素の欠陥は、さまざまな方法で画面に表示されます。画素欠陥には 3 つのカテゴリーがあり、各カテゴリーにはいくつかの種類のサブ画素欠陥があります。

ドット定義 = 欠陥のある「ドット」とは何か？：

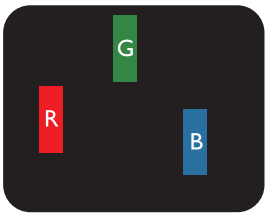
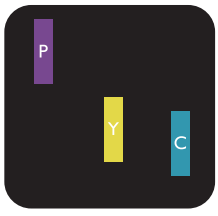
1 つ以上の欠陥、隣接するサブ画素は 1 つの「ドット」として定義されます。欠陥のあるサブ画素の数は、欠陥ドットの定義に関連しません。つまり、欠陥ドットは 1、2 または 3 つの暗いまたは点灯する、欠陥サブ画素で構成されることがあります。



1 つのドット = 赤、緑、青の 3 つのサブ画素で構成される 1 つの画素。

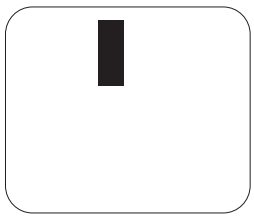
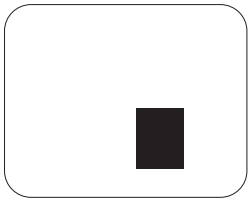
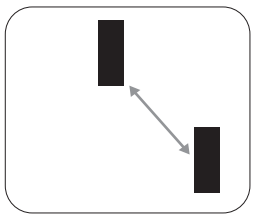
9.3. 明るいドット欠陥

明るいドット欠陥は、常時点灯または「オン」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、明るいドット欠陥の例を紹介します。

		
1 つの点灯する赤、緑または青いサブ画素。	2 つの隣接する点灯サブ画素： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = 青緑 (ライトブルー)	3 つの隣接する点灯サブ画素（1 つの白い画素）

9.4. 暗いドット欠陥

暗いドット欠陥は、常に暗いかまたは「オフ」になっている画素またはサブ画素として表されます。以下に、暗いドット欠陥の例を紹介します。

		
1 つの暗いドット	2 つの隣接する暗いドット = 1 組の暗いドット	2 つの暗いドット、仕様は暗いドット間の最小距離を定義します

9.5. 画素欠陥の近接

互いに近くにある同じ種類の画素とサブ画素欠陥はとても目立つため、Philips では画素欠陥の近接の許容範囲についても指定しています。以下の表で、その仕様をご確認ください。

- 許容される量の隣接する暗いドット = (隣接する暗いドット = 1 組の暗いドット)
- 暗いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの総数

9.6. 画素欠陥の許容範囲

保証期間中に画素欠陥による修理または交換の資格を得るには、Philips プラズマ /LCD ディスプレイの PDP/TFT モニタパネルに、次の表に一覧された許容範囲を超えた画素またはサブ画素欠陥がある必要があります。

明るいドット欠陥	受け入れられるレベル
1 つの明るいサブ画素	2
黒いドット欠陥	受け入れられるレベル
1 つの暗いサブ画素	10
すべての種類の総ドット欠陥	12

注記：* 1 つまたは 2 つの隣接するサブ画素欠陥 = 1 つのドット欠陥

9.7. MURA

一部の LCD (液晶ディスプレイ) パネルには、暗い点またはパッチがときどき現れることがあります。この現象は、日本語の「ムラ」という用語である Mura として業界では知られています。これは、均一でない画面均一性が特定の条件下で現れる領域の一様でないパターンを説明するために使用されます。Mura は液晶配向層の劣化の結果で、高い周辺温度下での長期間の操作が原因でもっとも一般的に引き起こされます。 これは業界全体の現象で、Mura は修理できません。これも、当社の保証条件の対象外です。

Mura は LCD 技術の導入から、画面が大きくなり 1 日 24 時間休みなしに稼働するようになり、多くのディスプレイが低い低光量の条件下で動作されるようになってからずっとつきまとっています。こういったことすべてが、ディスプレイに影響を与える Mura の可能性を高めています。

Mura を見分ける方法

Mura には多くの症状と、複数の原因があります。これらのいくつかを、以下に一覧します。

- 結晶マトリックスの混入物または異物
- 製造中の液晶マトリックスの不均等な分布
- バックライトの付近位置な輝度分布
- パネル部品誘発ストレス
- LCD セル内部の傷
- 熱誘発ストレス - 長期間にわたる高温での操作

Mura を避ける方法

毎回 Mura を完全に根絶する保証はできませんが、一般に Mura の出現は以下の方法により最小限に抑えることができます。

- バックライトの明るさを下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 装置周囲の空気温度を下げる

10. 清掃とトラブルシューティング

10.1. 清掃

本ディスプレイを使用する際の注意

- 手や顔、物を本ディスプレイの通気口に近づけないでください。本ディスプレイの上部は、通気口から放出される高温の排気のため、通常は高温となっています。身体の一部を近づけすぎると、火傷や怪我をすることがあります。本ディスプレイの上部近くになんらかの物を置くと、この物およびディスプレイ自体に熱関連の損傷が起こることがあります。
- 本ディスプレイを移動する際は、必ずすべてのケーブルを抜いてください。ケーブルが接続されたままディスプレイを移動させると、ケーブルが損傷し、その結果、火事や感電の恐れがあります。
- あらゆる種類の清掃や保守作業を行う前に、安全対策として電源プラグをコンセントから抜いてください。

前面パネル清掃手順

- 本ディスプレイの前面には特別な処理が施されています。表面は布巾または柔らかい糸くずの出ない布で優しく拭いてください。
- 液晶パネル表面が汚れた場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい糸くずの出ない布を浸し、布を堅く絞り、余分な水分を除きます。本ディスプレイの表面を拭き、埃を除いてください。その後、同じ種類の乾いた布で拭いてください。
- 液晶パネル表面を爪で引っ掻いたり、硬い物をぶつけたりしないで下さい。
- 殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないで下さい。

キャビネット清掃手順

- キャビネットが汚れたら、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- キャビネットがひどく汚れている場合には、中性洗剤の溶液に柔らかい、糸くずの出ない布を浸します。布を絞り、できるだけ水分を除きます。キャビネットを拭き取ります。表面が乾くまで、別の乾いた布で拭きます。
- プラスチック部品の洗浄に油を含む溶液を使用しないでください。このような製品はプラスチック部品を損傷し、保証を無効にします。
- 本ディスプレイの表面には、水や洗剤が触れないようにしてください。水や水分が本ディスプレイ内部に入り込むと、動作上の問題、電気的障害、および感電事故が起こる恐れがあります。
- 爪やあらゆる種類の堅い物でキャビネットを引っ掻いたり、ぶつけたりしないでください。
- キャビネットには殺虫剤、溶剤、シンナーのような揮発性物質を使用しないでください。
- 長期間ゴムまたはポリ塩化ビニル製の物をキャビネット近くに置かないでください。

10.2. トラブルシューティング

症状	想定される原因	対処
画像が表示されない	1. 電源コードが抜けています。 2. 本ディスプレイの背面にある主電源スイッチが ON になっていません。 3. 選択された入力が接続されていません。 4. ディスプレイがスタンバイモード中です。	1. 電源コードをコンセントに差し込みます。 2. 電源スイッチが ON であることを確認します。 3. 本ディスプレイに信号接続を接続します。
本ディスプレイで表示される画像が乱れる、または音声にノイズが聞こえる	周囲の電子機器や蛍光灯が原因です。	干渉が少なくなるような別の場所に本ディスプレイを移動させます。
色がおかしい	信号ケーブルが正しく接続されていません。	本ディスプレイの背面に信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
画像が異常なパターンで歪んでいる	1. 信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 入力信号が本ディスプレイの能力を超えています。	1. 信号ケーブルが確実に接続されていることを確認します。 2. 本ディスプレイの範囲を超えていないか、ビデオ信号ソースを確認します。本ディスプレイの仕様のセクションで、仕様を確認してください。
表示画像が画面サイズいっぱいに表示されない	1. ズームモードが正しく設定されていません。 2. スキャンモードが間違ってアンダースキャンに設定されています。 3. 画像が画面サイズを超える場合、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。	画面設定メニューのズームモードまたはカスタムズーム機能を使用して、ディスプレイのジオメトリーと周波数パラメータを微調整します。
音声は聞こえるが、画像が表示されない	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。
画像は表示されるが、音声が聞こえない	1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量が一番低く設定されています。 3. { 消音 } がオンになっている。 4. 外部スピーカーが接続されていません。	1. ビデオ入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認します。 2. [＋] または [ー] ボタンを押して音声が聞こえるか確認します。 3. [🔇] ボタンを使って消音をオフにします。 4. 外部スピーカーを接続し、適切なレベルに音量を調整します。
一部の画素が光らない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	本ディスプレイは超ハイレベルな精密技術で製造されています。しかし、画面の一部に画素欠けが存在する場合があります。これは故障ではありません。
電源をオフにした後も残像が表示されています。(例:ロゴ、ビデオゲーム、コンピュータ画像、4:3 のノーマルモードで表示された画像を含む静止画像)	静止画像が時間より長く表示されていました。	長期間静止画像を表示しないようにしてください。本ディスプレイ上に永続的な残像が残る原因となるためです。

11. 技術仕様

ディスプレイ:

項目	仕様
画面サイズ（アクティブ領域）	163.9 cm/64.5 インチ
縦横比	16:9
画素数	3840（水平）x 2160（垂直）
画素ピッチ	0.372 (横) x 0.372 (縦) [mm]
表示可能色	8 ビット +FRC、10 億 7 千万色
ブライトネス（標準）	750 cd/m^2
コントラスト比（標準）	1200:1
表示角度	178 度

入 / 出力端子:

項目		仕様
スピーカー出力	内部スピーカー	10W (左) + 10W (右) [RMS]/8 Ω 82dB/W/M/160Hz ～ 13KHz
音声出力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V[rms]（標準）/2 チャンネル (左 + 右)
音声入力	3.5mm フォンジャック x 1	0.5V[rms]（標準）/2 チャンネル (左 + 右)
RS232	2.5mm フォンジャック x 2	RS232 入力 /RS232 出力
RJ-45	RJ-45 ジャック x1（8 ピン）	10/100 LAN ポート
HDMI 入力 / 出力	HDMI ジャック x 3 (入力)/x 1 (出力) (タイプ A) (19 ピン)	デジタル RGB：TMDS (ビデオ + 音声) 最大 : 動画 - 720p、1080p、3840x2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (左 + 右) LPCM のみサポート
ディスプレイポート イン / アウト	ディスプレイポートジャック x 2 (20 ピン)	デジタル RGB：TMDS (ビデオ + 音声) 最大 : ビデオ - 720p、1080p、3840 x 2160/60 Hz 音声 - 48 KHz/2 チャンネル (L+R) LPCM のみサポート
DVI-I 入力	DVI-I ジャック	デジタル RGB：TMDS (ビデオ) アナログ RGB：0.7V [p-p] (75 Ω)、H/CS/V: TTL (2.2k Ω)、 最大 : 1920 x 1080/60 Hz (WUXGA)
IR 入力 / 出力	3.5mm x 2	IR パススルー
USB 入力	USB x 2（タイプ A）	USB 2.0、マルチメディア再生およびサービスポート

一般：

項目	仕様
電源入力	100 ～ 240V~、50/60Hz
消費電力 (最大)	210 W
消費電力（標準）	128 W
消費電力（スタンバイモード & オフモード）	<0.5 W
AC スイッチオフモード (W)	0 W
寸法 [幅 x 高さ x 奥行]	1462.3 mm (幅) x 837.3 mm (高さ) x 89.9 mm (奥行 (最大時))/69.0 mm (奥行 (壁取り付け時))
重量	27.8 Kg
総重量	34.4 Kg

環境条件：

項目		仕様
温度	操作時	0 ~ 40° C
	保管時	-20 ~ 60° C
湿度	操作時	20 ～ 80% RH（結露なし）
	保管時	5 ～ 95% RH（結露なし）
高度	操作時	0 ~ 5,000 m
	保管時 / 輸送中	0 ~ 9,000 m

PHILIPS

Professional
Display Solutions

Warranty

Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポリシー

本 Philips 製品をご購入いただき、ありがとうございます。Philips は、高い基準に従い設計および製造されており、高品質な性能、使いやすさ、設置しやすさを実現します。製品の使用中に問題が発生した場合は、最初にユーザーマニュアル、Web サイトのサポートセクションの情報を確認することをお勧めします。ここで、(製品の種別に応じて)、ダウンロード可能なユーザー間にゅる、よくある質問 (FAQ)、手順ビデオ、サポートフォーラムを利用することができます。

限定保証

万が一、製品の修理が必要になった場合、Philips 製品がユーザーマニュアルに従って(意図された環境などで)使用された場合、保証期間内に無料で修理されるよう手配します。

これらの製品カテゴリーでは、Philips のパートナー企業が製品の保証人となります。製品に付属のドキュメントを確認してください。

保証対象者

保証期間は、製品の最初の購入日から始まります。保証サービスを受けるには、購入証明書を提出する必要があります。製品を購入したことを示す有効な領収書またはその他の有効な文書は、購入の証明と見なされます。

保証の対象

保証期間内に不良な材料および / または工作による不具合が発生した場合は、無料サービスの手配をさせていただきます。修理が不可能または商業的に実行可能でない場合、当社は製品を同様の機能を備えた新品または同等の再生品と交換する場合があります。交換は当社の裁量で提供するものとします。また、保証は製品の最初の購入日の最初の購入日から継続されるものします。修理および交換された部品を含むすべての部品は、元の保証期間中のみ保証の対象となることに注意してください。

保証の対象外 以下は保証の対象外となります。

- 結果的な損害(データの損失または収入の損失を含むがこれらに限定されません)。定期的なメンテナンス、ファームウェアアップデートのインストール、データの保存または復元など、お客様自身で行ったアクティビティに対する補償(一部の州では、偶発的または結果的な損害の除外が許可されていないため、上記の除外がお客様に適用されない場合があります。これには、著作権で保護されているかどうかにかかわらず、事前に録音された素材が含まれますが、これらに限定されません)。
- 製品の設置またはセットアップ、製品の顧客管理の調整、および製品外のさまざまなタイプの外部デバイス(Wi-Fi、アンテナ、USB ドングル、OPS タイプのデバイスなど)およびその他のシステムの設置または修理にかかる人件費。
- 信号状態またはユニット外のケーブルまたはアンテナシステムによって引き起こされる受信の問題。
- 設計、製造、承認、および / または認可された国以外の国で動作できるようにするために変更または適合が必要な製品、またはこれらの変更によって損傷した製品の修理。
- 製品のモデルまたは製造番号が変更、削除された場合、または判読不能になった場合。

保証は、製品が意図された使用のために適切に取り扱われ、操作手順に従っていることを条件として適用されます。

保証サービスと保証に関する情報を取得する場合

詳細な保証範囲情報および追加のサポート要件とヘルプラインについては、製品を購入した販売者および / またはシステムインテグレーターにお問い合わせください。米国内において、この限定保証は、米国大陸、アラスカ、ハワイにおいて購入された製品に対してのみ有効であることに注意してください。

修理を依頼する前に

修理を依頼する前に、ユーザーズマニュアルを確認してください。そこで説明されているコントロールを調整すると、サービスコールを節約できる場合があります。

保証期間

PHILIPS サイネージ表示の保証期間は以下のとおりです。この表に記載されていない地域については、保証書に従ってください。

PHILIPS サイネージディスプレイの標準保証期間は以下のとおりです。この表に記載されていない領域については、保証書に従ってください。

地域	標準保証期間
米国、カナダ	3 年
中国	3 年
日本	3 年
その他の地域	3 年
メキシコ	3 年
ブラジル	3 年
チリ	3 年
ペルー	3 年

プロフェッショナル製品の場合、販売契約または購入契約の特定の保証条件が適用される場合があることに注意してください。

索引

ケーブルを使ったネットワーク接続 16
コントロールパネル 8
デイジーチェーン構成で複数のディスプレイを接続する 15
リモコン 10
入力モード 27
入力 / 出力端子 9
取り扱い 17
各部の機能 8
安全上の注意 1
壁に取り付ける 6
外部機器を接続する 14
対応するメディア形式 26
技術仕様 33
梱包箱に含まれているもの 5
清掃とトラブルシューティング 31
画素欠陥ポリシー 28
縦長向きの設置について 7
設置に関する注意 5
開梱 3
開梱と設置 3

A

AC スイッチカバー 13

I

IR パススルー接続 16
IR 接続 15

O

OSD メニュー 18
OSD メニューの概要 18
OSD メニューをナビゲートする 18

P

PC の接続 14
Philips プロフェッショナルディスプレイソリューションの保証ポリシー 35

U

USB カバー 13
USB デバイスのマルチメディア ファイルを再生する 17

2025 © TOP Victory Investments Ltd. 無断複製および転載を禁じます。

本製品は、Top Victory Investments Ltd.,によって製造され、その責任の下で販売されており、Top Victory InvestmentsLtd.,が本製品に関する保証人です。PhilipsおよびPhilipsShield Emblemは、Koninklijke Philips N.V.の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は、事前の通知なしに変更することがあります。
バージョン：V1.00　2025-08-01